

熊谷市子どもの貧困調査報告書

平成 31 年3月

立 正 大 学
熊 谷 市
熊谷児童相談所

目次

I. はじめに	2
II. 方法と倫理的配慮	3
III. 結果と考察	6
1. 保護者関連項目		
2. 児童関連項目		
IV. 総合考察	35
V. おわりに	39
参考・引用文献	40
ワーキングメンバー	41

I. はじめに

近年、日本の家族とそのライフスタイルは大きく変化している。産業構造の変化の中で人々はサラリーマン化し、生まれ育った地域を離れて働きに出るようになった。進学や就職、結婚などを機に人口移動が起こると、地域にあった地縁・血縁によるつながりが薄れ、地域における子育て支援機能の低下がみられるようになった。地域共同体の崩壊とともに、子どもを見守る地域社会のまなざしが消え、家族が孤立化する傾向がみられるようになった。新しく世帯を形成した核家族は生まれ育った地域を離れ、見ず知らずの地域での生活は、不安や緊張、他者とかかわることへの煩わしさなどから、地域での人間関係構築を避けるなど、近隣との人間関係の希薄化が加速していった。また、三世帯での子育ては役割分担や助け合いがあったものの、家族の小規模化に伴い、家族内の個々人への負担が増えていった。特に、高度経済成長期の男性は仕事、女性は家庭という社会の流れの中で、女性が家庭内の育児の役割を担う割合が増えた。男性は仕事に追われ、長時間労働により仕事と家庭の両立が困難となり、男性が家事や育児にかかわることは物理的に制限が生まれた。近年は父親が子育てにかかわる時間が増えてきたものの、母親に比べると格段に少なく、また育児休業制度を利用して子育てにかかわる父親は少数である。このような夫が不在となる状況は、結果的に母子が密着し、育児が母親に集中することで育児ストレスや育児不安を感じやすい環境となっていく。さらにひとり親家庭が増える中で、片親のみで家庭・子育てと仕事の両立を図ることに困難をきたしている家庭が多く、格差社会の中で貧困の問題も顕在化してきている。このように母親が追い詰められることで、うつや虐待、放任など、不適切な養育につながるケースもみられる。

このような社会を背景に、立正大学社会福祉研究所では、2005～2006年度にかけて「子どもの生活研究プロジェクト」を実施した。本プロジェクト研究は、①こころやからだ、人格の発達の違いや歪みが生ずる環境や条件を多角的に総合的に検証し実態を明らかにする、②調査結果から幼児から小学校までの生活力、行動力、脳の発達機能の向上、発達障害、LDなどの不測の事態から子どもの生きる力や学習意欲を高める、③子どもの実態把握により、危機的環境の中でこころ豊かに生きる力、熊谷教育の目指す「生きる力をはぐくむ教育の推進」により、学力の向上と心の教育の充実を実現する方法を開発し、地域社会と密着した形で子どもを健康に育成する方策を構築し、多角的・総合的に進めることにより、地域の教育機能の改善に還元できるの3点を目的として、熊谷市の幼稚園、保育所、小学校に在籍する2～8歳の子どもの全保護者を対象とした質問紙調査を実施している（原田・石井・梅澤ほか、2007）。

そして、大平・石井・篠崎ほか(2017)は、上記調査から10年経過した時期に、熊谷市内の小学校・中学校に通う全子どもとその全保護者を対象にした立正社会福祉研究所「熊谷市子どもの生活実態調査・成育環境づくり(まちづくり)調査(以下、「熊谷市子どもの生活実態調査」と表記する)」を実施した。その目的は、家庭、学校、地域における子どもの「居場所」に視点を当て、その課題を明らかにし、調査結果を熊谷市内の子どもたちの様々な支援に役立てる」ことを目的としている。

本報告は、大平・石井・篠崎ほか(2017)の「熊谷市子どもの生活実態調査」をもとに、二次分析をおこなうものである。その際、子どもの貧困に着目し、熊谷市子どもの生活実態調査から現状と課題を整理することで、熊谷市の子どもの貧困対策を検討する上での論点を提示することを目的とする。そして、平成31年度に策定する熊谷市子ども・子育て支援事業計画における子どもの貧困に関する対策に役立てることを目指すものである。

Ⅱ. 方法

本報告は、大平・石井・篠崎ほか(2017)の熊谷市生活実態調査のデータを用いた二次分析を行うものである。そのため、大平・石井・篠崎ほか(2017)の調査の概要を以下に示す。

(1) 調査の概要

2016年6月～2016年7月にかけて、熊谷市内の全小学校、全中学校の児童生徒ならびに保護者を対象とした質問紙調査がおこなわれた。調査は、熊谷市教育委員会の協力のもと、熊谷市内の各小学校長ならびに中学校長に依頼された。その後、児童生徒のクラス担当教師から各児童生徒に調査の説明ならびに調査用紙が配布・回収された。

(2) 調査対象

本報告は、大平・石井・篠崎ほか(2017)がおこなった熊谷市内の全小学校、全中学校の児童生徒ならびに保護者への調査のうち、小学校1,2年生の児童とその保護者を対象とした。全29か所の小学校1,2年生の児童とその保護者をネストさせた形で調査用紙を配布し、計3,297名に回答を求めた。なお、児童への質問項目は、保護者が質問文を読み上げてから児童自身が回答する形式をとった。結果、全29か所の小学校から回答が得られ、計2,904件(回収率88.1%)の回答が得られた。よって、本報告においても2,904名の児童とその保護者を分析の対象とした。

(3) 質問項目

質問項目は、神奈川県における放課後の子どもの居場所づくりに向けた実態調査研究調査報告書(2014)、第1回幼児期から小学1年生の家庭教育調査報告書(2013)、平成25年度小学生・中学生の意識に関する調査(2014)、子ども・子育て支援に関する市民意向調査(2014)を参考にして作成された。大平ほか(2017)がおこなった調査項目のうち、以下の項目を抽出して用いた。

① 保護者質問項目

問1 : 続柄

問2 : 配偶者・パートナーの有無

問3 : 職業

問4 : あなたの家庭は経済的にどの程度のゆとりがありますか

問5 : お子さんは学校であった出来事をあなたにどのくらい話してくれますか

問6 : お子さんが友達のことや、勉強のことで困ったことがあったとき、真っ先に相談する家族がいますか

問7 : 犬の散歩係、お風呂のそうじ係、おちゃわんをならべる係など、お子さんに任せることで、家族の中での有用感を持たせるよう、あなたの家では配慮していますか

問8 : あなたの家では、お子さんを褒めることがどのくらいありますか

問9 : 放課後、お子さんがどのような場所で過ごしているかについて、あなたは把握していますか

問10: お子さんが放課後、主に過ごしている(と思われる)場所はどこですか(複数回答可)

問11: 放課後の時間を活用して、お子さんにさせたいことは何ですか

② 児童質問項目

問1 :性別

問2 :一緒に住んでいる人(複数回答可)

問3 :起床時間

問4 :就寝時間

問5 :家での勉強時間

問6 :将来、あなたは、どんな仕事をしたいですか

問7 :将来、あなたは、どの学校まで行きたいですか

問8 :いつも、学校であったできごとを家族にどのくらい話しますか

問9 :友だちのことや勉強のことで困ったことがあったとき、真っ先に相談する家族はだれですか

問10:いつも夕食はだれといっしょに食べますか

問11:家族で買い物や食事に出かけることがありますか

問12:犬の散歩係、お風呂のそうじ係、おちゃわんをならべる係など、家の中であなたに任せられた仕事がありますか

問13:あなたは、家族にほめられることが多い方だと思いますか

問14-1:「家」では、自分を本当に理解してくれる人がいて、大切にされている

問14-2:「家」では、自分らしくいられて、楽しい

問14-3:「家」では、自分だけの時間が持て、好きなことができる

問14-4:「家」では、自分のことについてよく考え、ボーっとすることがある

問14-5:「家」では、何(なに)かにむちゅうになれ、自分に自信がもてる

問14-6:「家」では、他の人のペースに合わせなくて、人を気にしなくていい

問15:放課後、あなたは、どんな場所で過ごすことが多いですか(複数回答可)

問16-1:「居場所」には、自分を本当に理解してくれる人がいて、大切にされている

問16-2:「居場所」では、自分らしくいられて、楽しい

問16-3:「居場所」では、自分だけの時間が持て、好きなことができる

問16-4:「居場所」では、自分のことについてよく考え、ボーっとすることがある

問16-5:「居場所」では、何かにむちゅうになれ、自分に自信がもてる

問16-6:「居場所」では、他の人のペースに合わせなくて、人を気にしなくていい

問17:あなたは、放課後の時間を楽しく過ごしていますか

問18:放課後、あなたが、もっとやってみたいと思うもの(複数回答可)

問19:あなたは、休日を楽しんでいますか

問20:休日、あなたが、もっとやってみたいと思うもの(複数回答可)

問21:学校で過ごす時間の中で楽しみにしている時間はありますか

問22:得意な勉強がありますか

問23:友だちのことや勉強のことで困ったときに、何でも話せる仲のよい友だちがいますか

問24:困ったときに真っ先に相談できる先生が身近にいますか

(4)分析の視点

本報告は、熊谷市内の子どもの貧困状況を把握することを目的としていることから、保護者への質問項目のうち、「問4 :あなたの家庭は経済的にどの程度のゆとりがありますか」(以下、「経済的ゆとり感」と表記する)を主軸とした分析をおこなう。具体的には、上記の問いの回答選択肢として、「かなりゆとりがある」、「多少はゆとりがある」、「あまりゆとりがない」、「ほとんどゆとりがない」の4つを設けている。そのため、上記4つの群と各質問項目との関係をクロス集計し、家庭の経済的ゆとり感の各群と各要因との関係性の傾向を示す。

(5)倫理的配慮

調査は、熊谷市教育委員会の協力のもと、熊谷市内の全小学校長、全中学校長に依頼を行った。調査協力が得られた学校について、児童ならびに保護者に対して、調査研究の目的や、本調査は無記名で実施し、個人が特定されることはない旨を文書で伝え、うえで調査が実施された。

Ⅲ. 結果と考察

1. 保護者関連項目

(1) 経済的ゆとり感

保護者に対して「あなたの家庭は経済的にどの程度のゆとりがありますか」と質問した結果を表1に示す。「かなりゆとりがある」と回答した者は35名(1.2%)、「多少はゆとりがある」と回答した者は1,211名(41.7%)、「あまりゆとりがない」と回答した者は1,059名(36.5%)、「ほとんどゆとりがない」と回答した者は414名(14.3%)であった。全体的には、経済的ゆとり感がある群より経済的ゆとり感がない群の割合が若干高い傾向がみられた。特に、「ほとんどゆとりがない」と回答した者の割合は、2015年の国民生活基礎調査にて発表された相対的貧困率は15.7%、子どもの貧困率は13.9%、子どもがいる現役世帯の貧困率は12.9%と比較的近似値であった。

本調査の経済的ゆとり感は主観的なものであるが、上述の客観的データと重なる部分があると考えられることから、以下、経済的ゆとり感と関連すると考えられる各項目とのクロス集計をおこなう。なお、以降の集計は、無回答(欠損値)を除くこととする。

表1 経済的ゆとり感の結果

	N	%
かなりゆとりがある	35	1.2%
多少はゆとりがある	1,211	41.7%
あまりゆとりがない	1,059	36.5%
ほとんどゆとりがない	414	14.3%
無回答	185	6.4%
合計	2,904	100.0%

(2) 経済的ゆとり感と続柄との関係

保護者に対して「あなたとお子さんとの関係」について質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表2に示す。回答者は、母2,531名(93.8%)、父157名(5.8%)、祖母9名(0.3%)であり、母親が多くの割合を占めていた。

表2 経済的ゆとり感と続柄との関係

		母	父	祖母	合計
かなりゆとりがある	N	33	2	0	35
	%	94.3%	5.7%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	1,138	63	3	1,204
	%	94.5%	5.2%	0.2%	100.0%
あまりゆとりがない	N	975	67	4	1,046
	%	93.2%	6.4%	0.4%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	385	25	2	412
	%	93.4%	6.1%	0.5%	100.0%
合計	N	2,531	157	9	2,697
	%	93.8%	5.8%	0.3%	100.0%

(3) 経済的ゆとり感と配偶者の有無との関係

保護者に対して「あなたには配偶者・パートナーがいますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表3に示す。回答者のうち、配偶者・パートナーが「いる」2,441名(91.9%)、「死別」16名(0.6%)、「離別」174名(6.6%)、「未婚」25名(0.9%)であった。

配偶者・パートナーと経済的ゆとり感との関係は、「かなりゆとりがある」群から「ほとんどゆとりがない」群に移るほど、配偶者・パートナーが「いる」が減少し、「離別」や「未婚」の割合が増加する傾向がみられた。特に、「ほとんどゆとりがない」群における「離別」の割合は、その他の群と比較して顕著に高い。一方、「かなりゆとりがある」群の「死別」の割合は、その他の群と比較して高いものの、1名だけである。そのため、本結果における「死別」と経済的ゆとり感との関係性はみられなかった。

表3 経済的ゆとり感と配偶者の有無との関係

		いる	死別	離別	未婚	合計
かなりゆとりがある	N	33	1	1	0	35
	%	94.3%	2.9%	2.9%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	1,143	6	25	8	1,182
	%	96.7%	0.5%	2.1%	0.7%	100.0%
あまりゆとりがない	N	947	5	73	9	1,034
	%	91.6%	0.5%	7.1%	0.9%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	318	4	75	8	405
	%	78.5%	1.0%	18.5%	2.0%	100.0%
合計	N	2,441	16	174	25	2,656
	%	91.9%	0.6%	6.6%	0.9%	100.0%

(4) 経済的ゆとり感と職業との関係

保護者に対して「あなたの職業」について質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表4-1に示す。結果、「常勤」699名(26.0%)、「非常勤、パート、アルバイト」1,166名(43.4%)、「自営業主」77名(2.9%)、「自由業」10名(0.4%)、「専業主婦」714名(26.6%)、「失業中」20名(0.7%)であった。

表4-1 経済的ゆとり感と職業との関係

		常勤	非常勤、 パート、 アルバイト	自営業主	自由業	専業主婦	失業中	合計
かなりゆとりがある	N	14	6	2	0	12	0	34
	%	41.2%	17.6%	5.9%	0.0%	35.3%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	354	432	36	7	361	6	1,196
	%	29.6%	36.1%	3.0%	0.6%	30.2%	0.5%	100.0%
あまりゆとりがない	N	246	514	29	2	250	6	1,047
	%	23.5%	49.1%	2.8%	0.2%	23.9%	0.6%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	85	214	10	1	91	8	409
	%	20.8%	52.3%	2.4%	0.2%	22.2%	2.0%	100.0%
合計	N	699	1,166	77	10	714	20	2,686
	%	26.0%	43.4%	2.9%	0.4%	26.6%	0.7%	100.0%

表4-2 経済的ゆとり感と職業との関係(家庭別・回答者別)

母親回答	両親家庭							ひとり親家庭(母子家庭)						
	常勤	非常勤、パート、アルバイト	自営業主	自由業	専業主婦	失業中	合計	常勤	非常勤、パート、アルバイト	自営業主	自由業	専業主婦	失業中	合計
かなりゆとりがある	N 11	6	2	0	12	0	31	1	0	0	0	0	0	1
	% 35.5%	19.4%	6.5%	0.0%	38.7%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N 273	407	25	6	353	4	1,068	14	6	2	0	0	0	22
	% 25.6%	38.1%	2.3%	0.6%	33.1%	0.4%	100.0%	63.6%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N 143	466	18	1	241	2	871	33	27	1	0	3	2	66
	% 16.4%	53.5%	2.1%	0.1%	27.7%	0.2%	100.0%	50.0%	40.9%	1.5%	0.0%	4.5%	3.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N 39	166	4	0	87	2	298	25	38	1	0	0	4	68
	% 13.1%	55.7%	1.3%	0.0%	29.2%	0.7%	100.0%	36.8%	55.9%	1.5%	0.0%	0.0%	5.9%	100.0%
合計	N 466	1,045	49	7	693	8	2,268	73	71	4	0	3	6	157
	% 20.5%	46.1%	2.2%	0.3%	30.6%	0.4%	100.0%	46.5%	45.2%	2.5%	0.0%	1.9%	3.8%	100.0%

父親回答	両親家庭							ひとり親家庭(父子家庭)						
	常勤	非常勤、パート、アルバイト	自営業主	自由業	専業主婦	失業中	合計	常勤	非常勤、パート、アルバイト	自営業主	自由業	専業主婦	失業中	合計
かなりゆとりがある	N 1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	% 100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
多少はゆとりがある	N 48	1	6	1	0	0	56	2	0	1	0	0	0	3
	% 85.7%	1.8%	10.7%	1.8%	0.0%	0.0%	100.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N 54	1	5	0	0	1	61	3	0	2	0	0	0	5
	% 88.5%	1.6%	8.2%	0.0%	0.0%	1.6%	100.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N 15	0	1	0	1	0	17	2	0	1	1	0	0	4
	% 88.2%	0.0%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	N 118	2	12	1	1	1	135	7	0	4	1	0	0	12
	% 87.4%	1.5%	8.9%	0.7%	0.7%	0.7%	100.0%	58.3%	0.0%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%

経済的ゆとり感がなくなるほど、「常勤」、「自営業主」、「専業主婦」は減少する一方、「非常勤、パート、アルバイト」の割合が増加する傾向がみられた。特に、「ほとんどゆとりがない」群は、「非常勤、パート、アルバイト」が過半数を占めている特徴がみられた。これらは、経済的ゆとり感が低くても、必ずしも全員が就労するわけではないため、常勤就労できない、あるいは就労に出かけることができない阻害要因があると考えられる。

なお、表4-1のうち、配偶者・パートナーが「いる」を両親ともにいる家庭(以下、「両親家庭」とする)、「死別」と「離別」家庭をひとり親家庭として、職業別に集計した結果を4-2に示す。その際、母子家庭か父子家庭かの判断がつくようにした。結果、母子家庭の場合、両親家庭は「専業主婦」の割合が顕著に高い一方、「常勤」、「失業中」は低い傾向がみられた。父子家庭の場合、両親家庭は「常勤」の割合が顕著に高い一方、「自営業主」、「自由業」は低い傾向がみられた。

(5) 経済的ゆとり感と学校での出来事に関する子どもとの会話状況の関係

保護者に対して「お子さんは、学校であった出来事をあなたにどのくらい話してくれますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表5に示す。結果、「たくさん話してくれる」1,042名(38.4%)、「それほど多くはないが話してくれる」1,405名(51.8%)、「あまり話してくれない」251名(9.3%)、「全く話してくれない」15名(0.6%)であった。

経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、「たくさん話してくれる」割合が減少するとともに、「あまり話してくれない」、「全く話してくれない」が増加する傾向がみられた。

表5 経済的ゆとり感と学校での出来事に関する子どもとの会話状況の関係

		たくさん話してくれる	それほど多くはないが話してくれる	あまり話してくれない	全く話してくれない	合計
かなりゆとりがある	N	16	17	2	0	35
	%	45.7%	48.6%	5.7%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	502	615	89	3	1,209
	%	41.5%	50.9%	7.4%	0.2%	100.0%
あまりゆとりがない	N	382	560	106	8	1,056
	%	36.2%	53.0%	10.0%	0.8%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	142	213	54	4	413
	%	34.4%	51.6%	13.1%	1.0%	100.0%
合計	N	1,042	1,405	251	15	2,713
	%	38.4%	51.8%	9.3%	0.6%	100.0%

(6) 経済的ゆとり感と子ども自身の相談相手との関係

保護者に対して「お子さんが友達のことや、勉強のことで困ったことがあったとき、真っ先に相談する家族がいますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表6に示す。結果、「いる」2,658名(98.3%),「いない」47名(1.7%)であった。

困ったときの相談相手が「いない」割合が最も高いのは「かなりゆとりがある」群であり、次いで「ほとんどゆとりがない」群であった。一方、経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、相談相手がいない傾向がみられた。

表6 経済的ゆとり感と子ども自身の相談相手との関係

		いる	いない	合計
かなりゆとりがある	N	33	2	35
	%	94.3%	5.7%	100.0%
多少はゆとりがある	N	1,195	12	1,207
	%	99.0%	1.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	1,037	16	1,053
	%	98.5%	1.5%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	393	17	410
	%	95.9%	4.1%	100.0%
合計	N	2,658	47	2,705
	%	98.3%	1.7%	100.0%

(7) 経済的ゆとり感と子ども自身の有用感との関係

保護者に対して「犬の散歩係、お風呂のそうじ係、おちゃわんをならべる係など、お子さんに任せることで、家族の中での有用感を持たせるよう、あなたの家では配慮していますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表7に示す。結果、「している」621名(22.9%),「まあしている」1,167名(43.1%),「あまりしていない」793名(29.3%),「全くしていない」129名(4.8%)であった。

表7 経済的ゆとり感と子ども自身の有用感との関係

		している	まあ している	あまり していない	全く していない	合計
かなりゆとりがある	N	8	17	10	0	35
	%	22.9%	48.6%	28.6%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	270	539	341	56	1,206
	%	22.4%	44.7%	28.3%	4.6%	100.0%
あまりゆとりがない	N	227	453	330	46	1,056
	%	21.5%	42.9%	31.3%	4.4%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	116	158	112	27	413
	%	28.1%	38.3%	27.1%	6.5%	100.0%
合計	N	621	1,167	793	129	2,710
	%	22.9%	43.1%	29.3%	4.8%	100.0%

経済的ゆとり感の各群において、9割以上は家庭内での仕事を持たせており、経済的ゆとり感と子ども自身の有用感との関係はばらつきがみられた。一方、「ほとんどゆとりがない」群においては、「している」と「全くしていない」の割合が他の経済的ゆとり感の群と比較して高い傾向がみられた。

(8) 経済的ゆとり感と子どもを褒める頻度との関係

保護者に対して「あなたの家では、お子さんを褒めることがどのくらいありますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表8に示す。結果、「たくさんある」879名(32.4%)、「それほど多くはないがある」1,703名(62.8%)、「あまりない」128名(4.7%)、「全くない」2名(0.1%)であった。

経済的ゆとり感にかかわらず、ほとんど親は子どもを褒めている傾向がみられた。特に、「全くない」は2件だけであり、子どもを全く褒めないというケースはほとんどみられない。一方、経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、子どもを褒める頻度が「たくさんある」が減少し、「あまりない」が増加する傾向がみられた。

表8 経済的ゆとり感と子どもを褒める頻度との関係

		たくさんある	それほど多くは ないがある	あまりない	全くない	合計
かなりゆとりがある	N	17	17	1	0	35
	%	48.6%	48.6%	2.9%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	446	714	48	1	1,209
	%	36.9%	59.1%	4.0%	0.1%	100.0%
あまりゆとりがない	N	301	704	49	1	1,055
	%	28.5%	66.7%	4.6%	0.1%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	115	268	30	0	413
	%	27.8%	64.9%	7.3%	0.0%	100.0%
合計	N	879	1,703	128	2	2,712
	%	32.4%	62.8%	4.7%	0.1%	100.0%

(9) 経済的ゆとり感と子どもが過ごす場所の把握状況との関係

保護者に対して「放課後、お子さんがどのような場所で過ごしているかについて、あなたは把握していますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表9に示す。結果、「よく把握している」2,228名(82.1%)、「だいたい把握している」463名(17.1%)、「あまり把握していない」21名(0.8%)、「全く把握していない」1名(0.0%)であった。

経済的ゆとり感にかかわらず、親は子どもが放課後過ごす場所を把握している傾向がみられた。一方、経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、「よく把握している」の割合が減少するものの、「だいたい把握している」は増加している傾向がみられた。

表9 経済的ゆとり感と子どもが過ごす場所の把握状況との関係

		よく把握 している	だいたい 把握している	あまり把握 していない	全く把握 していない	合計
かなりゆとりがある	N	33	2	0	0	35
	%	94.3%	5.7%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	1,040	162	8	0	1,210
	%	86.0%	13.4%	0.7%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	834	211	10	1	1,056
	%	79.0%	20.0%	0.9%	0.1%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	321	88	3	0	412
	%	77.9%	21.4%	0.7%	0.0%	100.0%
合計	N	2,228	463	21	1	2,713
	%	82.1%	17.1%	0.8%	0.0%	100.0%

(10) 経済的ゆとり感と子どもが過ごす場所との関係

保護者に対して「お子さんが放課後、主に過ごしている(と思われる)場所はどこですか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表10に示す。結果、「自分の家」1,750名(64.4%)、「友だちの家」566名(20.8%)、「塾」93名(3.4%)、「習い事をする教室」696名(25.6%)、「学童保育所」938名(34.5%)、「学校の校庭」76名(2.8%)、「公園、広場など」514名(18.9%)、「図書館」23名(0.8%)、「児童館」65名(2.4%)、「スーパーやコンビニ」21名(0.8%)であった。

経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、「自分の家」や「習い事をする教室」、「塾」、「図書館」の割合が減少する一方、「友だちの家」は若干増加する傾向がみられた。「学童保育所」や「学校の校庭」、「児童館」は経済的ゆとり感との関係はみられない傾向であった。

表 10 経済的ゆとり感と子どもが過ごす場所との関係

		自分の家	友だちの家	塾	習い事をする教室	学童保育所
かなりゆとりがある	N	23	5	4	14	13
	%	65.7%	14.3%	11.4%	40.0%	37.1%
多少はゆとりがある	N	790	249	41	377	402
	%	65.2%	20.6%	3.4%	31.1%	33.2%
あまりゆとりがない	N	685	224	39	247	370
	%	64.7%	21.2%	3.7%	23.3%	34.9%
ほとんどゆとりがない	N	252	88	9	58	153
	%	60.9%	21.3%	2.2%	14.0%	37.0%
合計	N	1,750	566	93	696	938
	%	64.4%	20.8%	3.4%	25.6%	34.5%

		学校の校庭	公園、広場など	図書館	児童館	スーパーやコンビニ
かなりゆとりがある	N	1	3	1	2	2
	%	2.9%	8.6%	2.9%	5.7%	5.7%
多少はゆとりがある	N	34	226	11	25	5
	%	2.8%	18.7%	0.9%	2.1%	0.4%
あまりゆとりがない	N	29	209	9	27	12
	%	2.7%	19.7%	0.8%	2.5%	1.1%
ほとんどゆとりがない	N	12	76	2	11	2
	%	2.9%	18.4%	0.5%	2.7%	0.5%
合計	N	76	514	23	65	21
	%	2.8%	18.9%	0.8%	2.4%	0.8%

(11) 経済的ゆとり感と子どもの放課後の活用方法との関係

保護者に対して「放課後の時間を活用して、お子さんにさせたいことは何ですか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 11 に示す。結果、「勉強」2,032 名 (74.7%)、「本を読む、読み聞かせを聞く」1,577 名 (58.0%)、「おやつや料理を作る」814 名 (29.9%)、「昔遊び」398 名 (14.6%)、「絵やイラストを描く」790 名 (29.1%)、「簡単な実験や工作」495 名 (18.2%)、「虫取り、花の観察」848 名 (31.2%)、「音楽を聴く、楽器の演奏」620 名 (22.8%)、「運動やスポーツ」2,054 名 (75.5%)、「ボランティア活動」152 名 (5.6%)であった。

経済的ゆとり感がある群からないに移るほど、「勉強」の割合が減少する傾向がみられた。一方、「昔遊び」や「絵やイラストを描く」、「簡単な実験や工作」、「運動やスポーツ」、「ボランティア活動」は「かなりゆとりがある」と「ほとんどゆとりがない」に数値の増減があり、両極化の傾向がみられた。なお、「ほとんどゆとりがない」群において、他の群より割合が高いのは「ボランティア活動」であり、興味深い傾向がみられた。

表 11 経済的ゆとり感と子どもの放課後の活用方法との関係

		勉強	本を読む、読み聞かせを聞く	おやつや料理を作る	昔遊び(竹馬やコマなど)	絵やイラストを描く
かなりゆとりがある	N	29	21	10	6	14
	%	82.9%	60.0%	28.6%	17.1%	40.0%
多少はゆとりがある	N	907	744	409	181	370
	%	74.9%	61.4%	33.8%	14.9%	30.6%
あまりゆとりがない	N	791	578	270	144	276
	%	74.7%	54.6%	25.5%	13.6%	26.1%
ほとんどゆとりがない	N	305	234	125	67	130
	%	73.7%	56.5%	30.2%	16.2%	31.4%
合計	N	2,032	1,577	814	398	790
	%	74.7%	58.0%	29.9%	14.6%	29.1%

		簡単な実験や工作	虫取り、花の観察	音楽を聴く、楽器の演奏	運動やスポーツ	ボランティア活動
かなりゆとりがある	N	9	11	9	21	2
	%	25.7%	31.4%	25.7%	60.0%	5.7%
多少はゆとりがある	N	231	387	318	913	67
	%	19.1%	32.0%	26.3%	75.4%	5.5%
あまりゆとりがない	N	166	321	206	828	55
	%	15.7%	30.3%	19.5%	78.2%	5.2%
ほとんどゆとりがない	N	89	129	87	292	28
	%	21.5%	31.2%	21.0%	70.5%	6.8%
合計	N	495	848	620	2,054	152
	%	18.2%	31.2%	22.8%	75.5%	5.6%

2. 児童関連項目

(1) 経済的ゆとり感と子どもの性別との関係

児童に対して「性別」を質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 12 に示す。結果、性別について、「女性」1,309 名 (49.8%), 「男性」1,318 名 (50.2%) であった。経済的ゆとり感と性別との関係はばらつきがみられたため、特段の関係性はみられなかった。

表 12 経済的ゆとり感と子どもの性別の関係

		女性	男性	合計
かなりゆとりがある	N	16	17	33
	%	48.5%	51.5%	100.0%
多少はゆとりがある	N	591	578	1,169
	%	50.6%	49.4%	100.0%
あまりゆとりがない	N	492	535	1,027
	%	47.9%	52.1%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	210	188	398
	%	52.8%	47.2%	100.0%
合計	N	1,309	1,318	2,627
	%	49.8%	50.2%	100.0%

(2) 経済的ゆとり感と同居人との関係

児童に対して「一緒に住んでいる人」を質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 13 に示す。結果、「いる」と回答があったのは、「お母さん」2,601 名 (95.7%), 「お父さん」2,396 名 (88.1%), 「兄さん」837 名 (30.8%), 「姉さん」717 名 (26.4%), 「妹さん」658 名 (24.2%), 「弟さん」682 名 (25.1%), 「おばあちゃん」514 名 (18.9%), 「おじいちゃん」373 名 (13.7%) であった。

両親同居の割合は、「多少はゆとりがある」群が最も高い。一方、「お母さん」の同居割合が最も低いのは「かなりゆとりがある」群であり、「お父さん」も同等に同居割合が低い傾向がみられた。また、「お父さん」の同居割合が最も低いのは「ほとんどゆとりがない」群であり、母子世帯は父子世帯の約5倍程度である傾向がみられた。経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、兄弟姉妹がいる傾向がみられた。

表 13 経済的ゆとり感と同居人との関係

		お母さん	お父さん	兄さん	姉さん	妹さん	弟さん	おばあちゃん	おじいちゃん
かなりゆとりがある	N	31	31	6	10	5	8	8	4
	%	88.6%	88.6%	17.1%	28.6%	14.3%	22.9%	22.9%	11.4%
多少はゆとりがある	N	1,166	1,120	352	307	294	292	215	176
	%	96.3%	92.5%	29.1%	25.4%	24.3%	24.1%	17.8%	14.5%
あまりゆとりがない	N	1,010	932	332	281	251	266	200	143
	%	95.4%	88.0%	31.4%	26.5%	23.7%	25.1%	18.9%	13.5%
ほとんどゆとりがない	N	394	313	147	119	108	116	91	50
	%	95.2%	75.6%	35.5%	28.7%	26.1%	28.0%	22.0%	12.1%
合計	N	2,601	2,396	837	717	658	682	514	373
	%	95.7%	88.1%	30.8%	26.4%	24.2%	25.1%	18.9%	13.7%

(3) 経済的ゆとり感と起床時間および就寝時間との関係

児童に対して「あなたは、何時に起きますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 14 に示す。また、児童に対して「あなたは、何時に寝ますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 15 に示す。結果、起床時間について、学校がある日は、「4時台」1名(0.0%)、「5時台」156名(5.9%)、「6時台」2,373名(89.6%)、「7時台」117名(4.4%)、「8時台」0名(0.0%)、「9時台」0名(0.0%)、「10時台」0名(0.0%)、「11時台」0名(0.0%)であった。土曜日は「4時台」5名(0.2%)、「5時台」100名(3.8%)、「6時台」718名(27.1%)、「7時台」1,358名(51.3%)、「8時台」395名(14.9%)、「9時台」60名(2.3%)、「10時台」8名(0.3%)、「11時台」1名(0.0%)であった。日曜日は「4時台」6名(0.2%)、「5時台」101名(3.8%)、「6時台」620名(23.5%)、「7時台」1,374名(52.0%)、「8時台」442名(16.7%)、「9時台」86名(3.3%)、「10時台」13名(0.5%)、「11時台」1名(0.0%)であった。

表 14 経済的ゆとり感と起床時間との関係

		学校がある日								
		4時台	5時台	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	合計
かなりゆとりがある	N	0	1	30	1	0	0	0	0	32
	%	0.0%	3.1%	93.8%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	1	73	1,057	52	0	0	0	0	1,183
	%	0.1%	6.2%	89.3%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	0	53	929	45	0	0	0	0	1,027
	%	0.0%	5.2%	90.5%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	0	29	357	19	0	0	0	0	405
	%	0.0%	7.2%	88.1%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	N	1	156	2,373	117	0	0	0	0	2,647
	%	0.0%	5.9%	89.6%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

		土曜日								
		4時台	5時台	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	合計
かなりゆとりがある	N	0	2	9	13	7	1	0	0	32
	%	0.0%	6.3%	28.1%	40.6%	21.9%	3.1%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	4	49	317	613	174	22	3	0	1,182
	%	0.3%	4.1%	26.8%	51.9%	14.7%	1.9%	0.3%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	0	38	274	538	147	25	3	1	1,026
	%	0.0%	3.7%	26.7%	52.4%	14.3%	2.4%	0.3%	0.1%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	1	11	118	194	67	12	2	0	405
	%	0.2%	2.7%	29.1%	47.9%	16.5%	3.0%	0.5%	0.0%	100.0%
合計	N	5	100	718	1,358	395	60	8	1	2,645
	%	0.2%	3.8%	27.1%	51.3%	14.9%	2.3%	0.3%	0.0%	100.0%

		日曜日								
		4時台	5時台	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	11時台	合計
かなりゆとりがある	N	0	3	8	15	4	2	0	0	32
	%	0.0%	9.4%	25.0%	46.9%	12.5%	6.3%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	1	45	289	614	188	38	5	0	1,180
	%	0.1%	3.8%	24.5%	52.0%	15.9%	3.2%	0.4%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	3	36	233	551	167	31	4	1	1,026
	%	0.3%	3.5%	22.7%	53.7%	16.3%	3.0%	0.4%	0.1%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	2	17	90	194	83	15	4	0	405
	%	0.5%	4.2%	22.2%	47.9%	20.5%	3.7%	1.0%	0.0%	100.0%
合計	N	6	101	620	1,374	442	86	13	1	2,643
	%	0.2%	3.8%	23.5%	52.0%	16.7%	3.3%	0.5%	0.0%	100.0%

次に、就寝時間について、学校がある日は、「18時台」0名(0.0%)、「19時台」27名(1.0%)、「20時台」581名(21.9%)、「21時台」1,742名(65.8%)、「22時台」280名(10.6%)、「23時台」14名(0.5%)、「24時台」0名(0.0%)、「1時台」1名(0.0%)、「2時台」1名(0.0%)、「3時台」0名(0.0%)、「4時台」1名(0.0%)、「5時台」0名(0.0%)であった。土曜日は、「18時台」1名(0.0%)、「19時台」13名(0.5%)、「20時台」312名(11.8%)、「21時台」1,426名(53.9%)、「22時台」793名(30.0%)、「23時台」94名(3.6%)、「24時台」5名(0.2%)、「1時台」1名(0.0%)、「2時台」0名(0.0%)、「3時台」0名(0.0%)、「4時台」1名(0.0%)、「5時台」0名(0.0%)であった。結果、日曜日は、「18時台」0名(0.0%)、「19時台」13名(0.5%)、「20時台」423名(16.0%)、「21時台」1,591名(60.2%)、「22時台」546名(20.7%)、「23時台」62名(2.3%)、「24時台」4名(0.2%)、「1時台」2名(0.1%)、「2時台」0名(0.0%)、「3時台」0名(0.0%)、「4時台」1名(0.0%)、「5時台」1名(0.0%)であった。

起床時間ならびに就寝時間と経済的ゆとり感の関係について、「学校がある日」はばらつきが少なく、生活習慣が整っている特徴がみられた。一方、「土曜日」と「日曜日」は「かなりゆとりがある」群よりも他の群の方が、起床時間ならびに就寝時間にばらつきがみられた。つまり、一部の児童の基本的な生活習慣が乱れている懸念が考えられた。

表 15 経済的ゆとり感と就寝時間との関係

		学校がある日												
		18時台	19時台	20時台	21時台	22時台	23時台	24時台	1時台	2時台	3時台	4時台	5時台	合計
かなりゆとりがある	N	0	0	10	17	5	0	0	0	0	0	0	0	32
	%	0.0%	0.0%	31.2%	53.1%	15.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	0	14	270	785	111	2	0	0	0	0	0	0	1,182
	%	0.0%	1.3%	22.9%	66.5%	9.5%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	0	7	214	679	117	9	0	0	1	0	1	0	1,028
	%	0.0%	0.7%	20.9%	66.2%	11.4%	0.9%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	0	6	87	261	47	3	0	1	0	0	0	0	405
	%	0.0%	1.4%	21.2%	64.1%	11.5%	0.7%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	N	0	27	581	1,742	280	14	0	1	1	0	1	0	2,647
	%	0.0%	1.0%	21.9%	65.8%	10.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

		土曜日												
		18時台	19時台	20時台	21時台	22時台	23時台	24時台	1時台	2時台	3時台	4時台	5時台	合計
かなりゆとりがある	N	0	0	3	20	9	0	0	0	0	0	0	0	32
	%	0.0%	0.0%	9.4%	62.5%	28.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	1	4	150	647	341	38	1	0	0	0	0	0	1,182
	%	0.1%	0.4%	12.9%	54.9%	29.1%	3.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	0	5	113	551	317	36	4	0	0	0	1	0	1,027
	%	0.0%	0.5%	11.0%	53.8%	30.9%	3.5%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	0	4	46	208	126	20	0	1	0	0	0	0	405
	%	0.0%	1.0%	10.9%	51.1%	31.0%	4.9%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	N	1	13	312	1,426	793	94	5	1	0	0	1	0	2,646
	%	0.0%	0.5%	11.8%	53.9%	30.0%	3.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

		日曜日												
		18時台	19時台	20時台	21時台	22時台	23時台	24時台	1時台	2時台	3時台	4時台	5時台	合計
かなりゆとりがある	N	0	0	4	21	7	0	0	0	0	0	0	0	32
	%	0.0%	0.0%	12.5%	65.6%	21.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	0	3	204	720	231	21	1	0	0	0	0	0	1,180
	%	0.0%	0.3%	17.4%	61.1%	19.7%	1.9%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	0	6	153	616	219	27	3	1	0	0	1	0	1,026
	%	0.0%	0.6%	15.0%	60.2%	21.4%	2.6%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	0	4	62	234	89	14	0	1	0	0	0	1	405
	%	0.0%	1.0%	15.0%	57.4%	21.9%	3.4%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	100.0%
合計	N	0	13	423	1,591	546	62	4	2	0	0	1	1	2,643
	%	0.0%	0.5%	16.0%	60.2%	20.7%	2.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(5) 経済的ゆとり感と勉強時間との関係

児童に対して「あなたは、家で寝るまでの間に、どれくらい勉強をしますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 16 に示す。結果、学校がある日は、「1時間未満」1,463 名 (55.7%)、「1時間台」1,009 名 (38.4%)、「2時間台」119 名 (4.5%)、「3時間台」15 名 (0.6%)、「4時間台」2 名 (0.1%)、「5時間台」5 名 (0.2%)、「6時間台」4 名 (0.2%)、「7時間台」3 名 (0.1%)、「8時間台」0 名 (0.0%)、「9時間台」0 名 (0.0%)、「10 時間以上」8 名 (0.3%)であった。土曜日は、「1時間未満」1,757 名 (67.9%)、「1時間台」673 名 (26.0%)、「2時間台」118 名 (4.6%)、「3時間台」24 名 (0.9%)、「4時間台」2 名 (0.1%)、「5時間台」1 名 (0.0%)、「6時間台」2 名 (0.1%)、「7時間台」1 名 (0.0%)、「8時間台」0 名 (0.0%)、「9時間台」1 名 (0.0%)、「10 時間以上」9 名 (0.3%)であった。日曜日は、「1時間未満」1,855 名 (72.0%)、「1時間台」600 名 (23.3%)、「2時間台」85 名 (3.3%)、「3時間台」19 名 (0.7%)、「4時間台」3 名 (0.1%)、「5時間台」2 名 (0.1%)、「6時間台」1 名 (0.0%)、「7時間台」2 名 (0.1%)、「8時間台」1 名 (0.0%)、「9時間台」1 名 (0.0%)、「10 時間以上」9 名 (0.3%)であった。

勉強時間については、1日単位なのか、1週間単位なのか、あるいは1か月単位での勉強時間なのかは問いていない。そのため、解釈は十分に気を付ける必要があるが、一般的に1日に取り組める勉強時間を想定して解釈すると、「かなりゆとりがある」群は、他の群と比較して勉強時間が長い傾向がみられた。「かなりゆとりがある」群以外の群は、顕著な傾向はみられなかった。

表 16 経済的ゆとり感と勉強時間との関係

		学校がある日											合計
		1時間未満	1時間台	2時間台	3時間台	4時間台	5時間台	6時間台	7時間台	8時間台	9時間台	10時間以上	
かなりゆとりがある	N	16	12	4	0	0	0	0	0	0	0	0	32
	%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	666	444	52	4	1	1	0	0	0	0	4	1,172
	%	57.0%	38.0%	4.5%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	100.0%
あまりゆとりがない	N	565	392	45	9	0	3	2	2	0	0	2	1,020
	%	55.4%	38.5%	4.4%	0.9%	0.0%	0.3%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	216	161	18	2	1	1	2	1	0	0	2	404
	%	53.5%	39.6%	4.3%	0.5%	0.2%	0.2%	0.5%	0.2%	0.0%	0.0%	0.5%	100.0%
合計	N	1,463	1,009	119	15	2	5	4	3	0	0	8	2,628
	%	55.7%	38.4%	4.5%	0.6%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.3%	100.0%

		土曜日											合計
		1時間未満	1時間台	2時間台	3時間台	4時間台	5時間台	6時間台	7時間台	8時間台	9時間台	10時間以上	
かなりゆとりがある	N	16	12	1	2	0	0	0	0	0	0	0	31
	%	51.6%	38.7%	3.2%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	778	310	55	10	2	0	1	0	0	0	4	1,160
	%	67.2%	26.9%	4.8%	0.9%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	100.0%
あまりゆとりがない	N	694	252	42	9	0	0	0	1	0	1	3	1,002
	%	69.3%	25.2%	4.2%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	269	99	20	3	0	1	1	0	0	0	2	395
	%	68.3%	25.1%	5.2%	0.9%	0.0%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	100.0%
合計	N	1,757	673	118	24	2	1	2	1	0	1	9	2,588
	%	67.9%	26.0%	4.6%	0.9%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	100.0%

		日曜日											合計
		1時間未満	1時間台	2時間台	3時間台	4時間台	5時間台	6時間台	7時間台	8時間台	9時間台	10時間以上	
かなりゆとりがある	N	18	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	32
	%	56.1%	37.5%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	835	269	35	10	1	1	1	0	0	0	4	1,156
	%	72.5%	23.3%	3.1%	0.9%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	100.0%
あまりゆとりがない	N	721	228	35	5	0	0	0	1	1	1	3	995
	%	72.4%	22.9%	3.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	281	91	13	4	2	1	0	1	0	0	2	395
	%	71.4%	23.3%	3.3%	1.1%	0.6%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	100.0%
合計	N	1,855	600	85	19	3	2	1	2	1	1	9	2,578
	%	72.0%	23.3%	3.3%	0.7%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.3%	100.0%

(6) 経済的ゆとり感と希望職業との関係

児童に対して「将来就きたい仕事」を質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 17 に示す。結果、「会社員」56 名 (3.1%), 「医者」98 名 (5.4%), 「学校の先生」166 名 (9.2%), 「警察官」189 名 (10.4%), 「スポーツ選手」457 名 (25.2%), 「ケーキ屋」299 名 (16.5%), 「幼稚園・保育園の先生」199 名 (11.0%), 「わからない」346 名 (19.1%)であった。

「かなりゆとりがある」群は件数が少ないため解釈に注意が必要であるが、他の群と比較して、「医者」や「学校の先生」、「わからない」の割合が高い一方、「スポーツ選手」と「幼稚園・保育園の先生」の割合が低い傾向がみられた。

表 17 経済的ゆとり感と希望職業との関係

		会社員	医者	学校の先生	警察官	スポーツ選手	ケーキ屋	幼稚園・保育園の先生	わからない	合計
かなりゆとりがある	N	0	3	4	2	2	3	1	7	22
	%	0.0%	13.6%	18.2%	9.1%	9.1%	13.6%	4.5%	31.8%	100.0%
多少はゆとりがある	N	21	47	74	86	201	118	87	139	773
	%	2.7%	6.1%	9.6%	11.1%	26.0%	15.3%	11.3%	18.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	26	37	63	74	192	127	77	136	732
	%	3.6%	5.1%	8.6%	10.1%	26.2%	17.3%	10.5%	18.6%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	9	11	25	27	62	51	34	64	283
	%	3.2%	3.9%	8.8%	9.5%	21.9%	18.0%	12.0%	22.6%	100.0%
合計	N	56	98	166	189	457	299	199	346	1,810
	%	3.1%	5.4%	9.2%	10.4%	25.2%	16.5%	11.0%	19.1%	100.0%

(7) 経済的ゆとり感と進学希望との関係

児童に対して「進学希望」を質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 18 に示す。結果、「中学校まで」23 名 (0.9%), 「高校まで」317 名 (12.1%), 「専門学校・各種学校まで」297 名 (11.3%), 「短期大学まで」37 名 (1.4%), 「大学まで」1,036 名 (39.6%), 「大学院まで」213 名 (8.1%), 「わからない」694 名 (26.5%)であった。

全体的に、経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、高学歴を目指す傾向がみられた。

表 18 経済的ゆとり感と進学希望との関係

		中学校まで	高校まで	専門学校・ 各種学校まで	短期大学まで	大学まで	大学院まで	わからない	合計
かなりゆとりがある	N	0	0	0	0	18	7	8	33
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	54.5%	21.2%	24.2%	100.0%
多少はゆとりがある	N	10	115	110	17	523	110	285	1,170
	%	0.9%	9.8%	9.4%	1.5%	44.7%	9.4%	24.4%	100.0%
あまりゆとりがない	N	8	134	128	15	381	66	283	1,015
	%	0.8%	13.2%	12.6%	1.5%	37.5%	6.5%	27.9%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	5	68	59	5	114	30	118	399
	%	1.3%	17.0%	14.8%	1.3%	28.6%	7.5%	29.6%	100.0%
合計	N	23	317	297	37	1,036	213	694	2,617
	%	0.9%	12.1%	11.3%	1.4%	39.6%	8.1%	26.5%	100.0%

(8) 経済的ゆとり感と学校の出来事を家族に話す程度との関係

児童に対して「学校であったできごとを家族にどのくらい話しますか」を質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 19 に示す。結果、「たくさん話す」1,078 名 (40.9%), 「それほど多くはないが話す」1,126 名 (42.7%), 「あまり話さない」388 名 (14.7%), 「まったく話さない」46 名 (1.7%) であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、たくさん話す傾向がみられた。「ほとんどゆとりがない」群は他の群と比較して、「あまり話さない」と「まったく話さない」の割合が高い傾向がみられた。

表 19 経済的ゆとり感と学校の出来事を家族に話す程度との関係

		たくさん話す	それほど多くはないが話す	あまり話さない	まったく話さない	合計
かなりゆとりがある	N	16	12	5	0	33
	%	48.5%	36.4%	15.2%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	496	503	159	20	1,178
	%	42.1%	42.7%	13.5%	1.7%	100.0%
あまりゆとりがない	N	414	444	152	13	1,023
	%	40.5%	43.4%	14.9%	1.3%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	152	167	72	13	404
	%	37.6%	41.3%	17.8%	3.2%	100.0%
合計	N	1,078	1,126	388	46	2,638
	%	40.9%	42.7%	14.7%	1.7%	100.0%

(9) 経済的ゆとり感と家族内の相談相手との関係

児童に対して「友だちのことや、勉強のことで困ったことがあったとき、真っ先に相談する家族はだれか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 20 に示す。結果、「お母さん」2,157 名 (86.3%), 「お父さん」148 名 (5.9%), 「お姉さん」51 名 (2.0%), 「お兄さん」28 名 (1.1%), 「妹」4 名 (0.2%), 「弟」3 名 (0.1%), 「おばあちゃん」64 名 (2.6%), 「おじいちゃん」11 名 (0.4%), 「相談する相手がいない」32 名 (1.3%) であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「お母さん」の割合が若干増加傾向にある一方、「相談相手がいない」の割合が減少する傾向がみられた。また、「ほとんどゆとりがない」群は、「おばあちゃん」の割合が若干高いが、それ以外の家族は、経済的ゆとり感についての特徴はみられなかった。

表 20 経済的ゆとり感と家族内の相談相手との関係

		お母さん	お父さん	お姉さん	お兄さん	妹	弟	おばあちゃん	おじいちゃん	相談する相手がいない	合計
かなりゆとりがある	N	30	2	1	0	0	0	1	0	0	34
	%	88.2%	5.9%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	986	67	20	8	2	1	20	4	9	1,117
	%	88.3%	6.0%	1.8%	0.7%	0.2%	0.1%	1.8%	0.4%	0.8%	100.0%
あまりゆとりがない	N	821	58	22	17	1	1	28	5	15	968
	%	84.8%	6.0%	2.3%	1.8%	0.1%	0.1%	2.9%	0.5%	1.5%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	320	21	8	3	1	1	15	2	8	379
	%	84.4%	5.5%	2.1%	0.8%	0.3%	0.3%	4.0%	0.5%	2.1%	100.0%
合計	N	2,157	148	51	28	4	3	64	11	32	2,498
	%	86.3%	5.9%	2.0%	1.1%	0.2%	0.1%	2.6%	0.4%	1.3%	100.0%

(10) 経済的ゆとり感と夕食を食べる家族との関係

児童に対して「いつも夕食はだれといっしょに食べるか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 21 に示す。結果、「お母さん」2,488 名 (91.5%), 「お父さん」1,208 名 (44.4%), 「姉さん」681 名 (25.0%), 「兄さん」783 名 (28.8%), 「妹さん」636 名 (23.4%), 「弟さん」660 名 (24.3%), 「おばあちゃん」424 名 (15.6%), 「おじいちゃん」280 名 (10.3%) であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「お母さん」の割合が増加する一方、「兄さん」、「妹さん」、「弟さん」、「おじいちゃん」の割合が減少する。「姉さん」は「ほとんどゆとりがない」群において若干高い割合を示しており、経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、兄弟姉妹と夕食を食べない傾向がみられた。「お父さん」や「おばあちゃん」は両極化の傾向がみられた。なお、本分析結果は、同居家族の有無にかかわらず集計しているため、解釈には注意が必要である。

表 21 経済的ゆとり感と夕食を食べる家族との関係

		お母さん	お父さん	姉さん	兄さん	妹さん	弟さん	おばあちゃん	おじいちゃん
かなりゆとりがある	N	33	14	9	5	4	8	6	4
	%	94.3%	40.0%	25.7%	14.3%	11.4%	22.9%	17.1%	11.4%
多少はゆとりがある	N	1,109	534	291	328	282	285	173	135
	%	91.6%	44.1%	24.0%	27.1%	23.3%	23.5%	14.3%	11.1%
あまりゆとりがない	N	973	488	267	312	248	254	166	102
	%	91.9%	46.1%	25.2%	29.5%	23.4%	24.0%	15.7%	9.6%
ほとんどゆとりがない	N	373	172	114	138	102	113	79	39
	%	90.1%	41.5%	27.5%	33.3%	24.6%	27.3%	19.1%	9.4%
合計	N	2,488	1,208	681	783	636	660	424	280
	%	91.5%	44.4%	25.0%	28.8%	23.4%	24.3%	15.6%	10.3%

(11) 経済的ゆとり感と家族で出かける頻度との関係

児童に対して「家族で買い物や食事に出かけることがあるか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 22 に示す。結果、「よくある」1,637 名 (61.8%), 「まあまあある」892 名 (33.7%), 「あまりない」116 名 (4.4%), 「まったくない」5 名 (0.2%) であった。

経済的ゆとり感の有無にかかわらず、家族で出かけている傾向がみられた。他方、経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど「よくある」が増加する一方、「まあまあある」の割合が減少する傾向がみられた。加えて、「あまりない」は「かなりゆとりがある」群と「ほとんどゆとりがない」群に両極化傾向がみられた。

表 22 経済的ゆとり感と家族で出かける頻度との関係

		よくある	まあまあある	あまりない	まったくない	合計
かなりゆとりがある	N	26	6	2	0	34
	%	76.5%	17.6%	5.9%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	755	386	41	1	1,183
	%	63.8%	32.6%	3.5%	0.1%	100.0%
あまりゆとりがない	N	624	360	44	3	1,031
	%	60.5%	34.9%	4.3%	0.3%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	232	140	29	1	402
	%	57.7%	34.8%	7.2%	0.2%	100.0%
合計	N	1,637	892	116	5	2,650
	%	61.8%	33.7%	4.4%	0.2%	100.0%

(12) 経済的ゆとり感と家庭内で任された仕事との関係

児童に対して「家の中であなたに任された仕事があるか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 23 に示す。結果、「よくある」599 名 (22.6%)、「まあまあある」1,073 名 (40.5%)、「あまりない」668 名 (25.2%)、「まったくない」307 名 (11.6%)であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「よくある」の割合が減少する一方、「まあまあある」の割合が増加する傾向がみられた。これらを、「よくある」+「まあまあある」と「あまりない」+「まったくない」に分けると、「かなりゆとりがある」群と「ほとんどゆとりがない」群は「多少ゆとりがある」群と「あまりゆとりがない」群と比較して、家の中で任された仕事がない傾向が若干みられた。

表 23 経済的ゆとり感と家庭内で任された仕事との関係

		よくある	まあまあある	あまりない	まったくない	合計
かなりゆとりがある	N	7	15	8	4	34
	%	20.6%	44.1%	23.5%	11.8%	100.0%
多少はゆとりがある	N	241	506	300	132	1,179
	%	20.4%	42.9%	25.4%	11.2%	100.0%
あまりゆとりがない	N	236	409	262	122	1,029
	%	22.9%	39.7%	25.5%	11.9%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	115	143	98	49	405
	%	28.4%	35.3%	24.2%	12.1%	100.0%
合計	N	599	1,073	668	307	2,647
	%	22.6%	40.5%	25.2%	11.6%	100.0%

(13) 経済的ゆとり感と家族に褒められる頻度との関係

児童に対して「あなたは、家族にほめられることが多い方だと思うか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 24 に示す。結果、「そう思う」847 名 (32.3%)、「まあそう思う」1,156 名 (44.1%)、「あまりそうは思わない」504 名 (19.2%)、「まったくそうは思わない」112 名 (4.3%)であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、褒められる頻度が多くなる傾向がみられた。なお、「かなりゆとりがある」群は「そう思う」の割合が顕著に高い一方、「ほとんどゆとりがない」群は顕著に

表 24 経済的ゆとり感と家族に褒められる頻度との関係

		そう思う	まあそう思う	あまりそうは 思わない	まったくそうは 思わない	合計
かなりゆとりがある	N	19	10	5	0	34
	%	55.9%	29.4%	14.7%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	399	531	188	52	1,170
	%	34.1%	45.4%	16.1%	4.4%	100.0%
あまりゆとりがない	N	320	445	211	39	1,015
	%	31.5%	43.8%	20.8%	3.8%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	109	170	100	21	400
	%	27.3%	42.5%	25.0%	5.3%	100.0%
合計	N	847	1,156	504	112	2,619
	%	32.3%	44.1%	19.2%	4.3%	100.0%

低く、かつ「あまりそうは思わない」や「まったくそうは思わない」の割合が、他の群と比較して高い傾向がみられた。なお、表8と対比すると、経済的ゆとり感の有無にかかわらず、9割以上の親は子どもを褒めていると回答しているものの、子ども自身はそう感じていない傾向がみられた。特に、「ほとんどゆとりがない」群は7割程度しか家族に褒められていると感じていない傾向がみられ、親子間の認識に齟齬が生じている懸念がみられた。

(14) 経済的ゆとり感と「家」に関する気持ちとの関係

児童に対して「あなたの“家”について、次のそれぞれの文は、自分の気持ちにどの程度あてはまりますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 25-30 に示す。

結果、「家には自分を本当に理解してくれる人がいて大切にされている」については、「ぜんぜんあてはまらない」51名(1.9%)、「あまりあてはまらない」104名(4.0%)、「ややあてはまる」596名(22.7%)、「とてもあてはまる」1,879名(71.4%)であった(表 25)。経済的ゆとり感の有無にかかわらず、9割以上の児童は「家には自分を本当に理解してくれる人がいて大切にされている」と感じている傾向がみられた。他方、「かなりゆとりがある」群は「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」に全回答が集まっているものの、他の群は「ぜんぜんあてはまらない」や「あまりあてはまらない」にもばらつきがみられる。特に、経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、「あまりあてはまらない」が増加する傾向がみられた。

「家では自分らしくいられて楽しい」については、「ぜんぜんあてはまらない」55名(2.1%)、「あまりあてはまらない」94名(3.6%)、「ややあてはまる」480名(18.3%)、「とてもあてはまる」1,997名(76.0%)であった(表 26)。経済的ゆとり感の有無にかかわらず、9割以上の児童は「家では自分らしくいられて楽しい」と感じている傾向がみられた。他方、経済的ゆとり感による顕著な相違がみられなかったが、「ぜんぜんあてはまらない」の割合が最も高いのは「ほとんどゆとりがない」群であり、「あまりあてはまらない」の割合が最も高いのは「かなりゆとりがある」群となり、両極化の傾向が若干みられた。

「家では自分だけの時間が持て好きなことができる」については、「ぜんぜんあてはまらない」99名(3.8%)、「あまりあてはまらない」271名(10.3%)、「ややあてはまる」680名(25.9%)、「とてもあてはまる」1,571名(59.9%)であった(表 27)。経済的ゆとり感と「家では自分だけの時間が持て好きなことができる」について、特徴的な相関関係はみられなかった。他方、経済的ゆとり感の各群をみると、「かなりゆとりがある」群は「あまりあてはまらない」の割合が最も高い一方、「とてもあてはまる」の割合が最も低い。「ほとんどゆとりがない」群は「とてもあてはまる」と「ぜんぜんあてはまらない」の割合が最も高く、両極化の傾向がみられた。

「家では自分のことについてよく考えボーっとすることがある」については、「ぜんぜんあてはまらない」636名(24.2%)、「あまりあてはまらない」655名(25.0%)、「ややあてはまる」665名(25.4%)、「とてもあてはまる」667名(25.4%)であった(表 28)。「家では自分のことについてよく考えボーっとすることがある」の特徴的な相関関係はみられなかった。他方、経済的ゆとり感の各群をみると、「かなりゆとりがある」群は「とてもあてはまる」と「あまりあてはまらない」の割合が最も高い一方、「ややあてはまる」と「ぜんぜんあてはまらない」の割合が最も低い。また、「ほとんどゆとりがない」群は「ややあてはまる」と「ぜんぜんあてはまらない」の割合が最も高い一方、「とてもあてはまる」と「あまりあてはまらない」の割合が最も低い傾向がみられた。

「家では何かに夢中になれ自分に自信がもてる」については、「ぜんぜんあてはまらない」97名(3.7%)、「あまりあてはまらない」288名(11.0%)、「ややあてはまる」744名(28.4%)、「とてもあてはま

る」1,491名(56.9%)であった(表29)。経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「家では何かに夢中になれ自分に自信がもてる」児童が増加する傾向がみられた。逆に、「ほとんどゆとりがない」群は「ぜんぜんあてはまらない」の割合が他の群より高い傾向がみられた。

「家では他の人のペースに合わせなくて人を気にしなくていい」については、「ぜんぜんあてはまらない」319名(12.1%),「あまりあてはまらない」585名(22.3%),「ややあてはまる」772名(29.4%),「とてもあてはまる」951名(36.2%)であった(表30)。経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「家では他の人のペースに合わせなくて人を気にしなくていい」のうち「とてもあてはまる」の割合が高くなる傾向がみられた。他方、「ぜんぜんあてはまらない」は「かなりゆとりがある」群と「ほとんどゆとりがない」群の割合が高く、両極化傾向がみられた。

表25 経済的ゆとり感と「家には自分を本当に理解してくれる人がいて大切にされている」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	0	0	8	26	34
	%	0.0%	0.0%	23.5%	76.5%	100.0%
多少はゆとりがある	N	24	41	247	860	1,172
	%	2.0%	3.5%	21.1%	73.4%	100.0%
あまりゆとりがない	N	17	45	235	723	1,020
	%	1.7%	4.4%	23.0%	70.9%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	10	18	106	270	404
	%	2.5%	4.5%	26.2%	66.8%	100.0%
合計	N	51	104	596	1,879	2,630
	%	1.9%	4.0%	22.7%	71.4%	100.0%

表26 経済的ゆとり感と「家では自分らしくいられて楽しい」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	0	2	6	25	33
	%	0.0%	6.1%	18.2%	75.8%	100.0%
多少はゆとりがある	N	25	44	202	901	1,172
	%	2.1%	3.8%	17.2%	76.9%	100.0%
あまりゆとりがない	N	16	31	193	779	1,019
	%	1.6%	3.0%	18.9%	76.4%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	14	17	79	292	402
	%	3.5%	4.2%	19.7%	72.6%	100.0%
合計	N	55	94	480	1,997	2,626
	%	2.1%	3.6%	18.3%	76.0%	100.0%

表 27 経済的ゆとり感と「家では自分だけの時間が持て好きなことができる」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	0	6	9	19	34
	%	0.0%	17.6%	26.5%	55.9%	100.0%
多少はゆとりがある	N	47	115	301	703	1,166
	%	4.0%	9.9%	25.8%	60.3%	100.0%
あまりゆとりがない	N	30	107	278	602	1,017
	%	2.9%	10.5%	27.3%	59.2%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	22	43	92	247	404
	%	5.4%	10.6%	22.8%	61.1%	100.0%
合計	N	99	271	680	1,571	2,621
	%	3.8%	10.3%	25.9%	59.9%	100.0%

表 28 経済的ゆとり感と「家では自分のことについてよく考えボーっとすることがある」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	7	9	8	10	34
	%	20.6%	26.5%	23.5%	29.4%	100.0%
多少はゆとりがある	N	288	295	284	301	1,168
	%	24.7%	25.3%	24.3%	25.8%	100.0%
あまりゆとりがない	N	238	259	264	257	1,018
	%	23.4%	25.4%	25.9%	25.2%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	103	92	109	99	403
	%	25.6%	22.8%	27.0%	24.6%	100.0%
合計	N	636	655	665	667	2,623
	%	24.2%	25.0%	25.4%	25.4%	100.0%

表 29 経済的ゆとり感と「家では何かに夢中になれ自分に自信がもてる」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	0	2	10	22	34
	%	0.0%	5.9%	29.4%	64.7%	100.0%
多少はゆとりがある	N	39	117	308	702	1,166
	%	3.3%	10.0%	26.4%	60.2%	100.0%
あまりゆとりがない	N	34	122	303	558	1,017
	%	3.3%	12.0%	29.8%	54.9%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	24	47	123	209	403
	%	6.0%	11.7%	30.5%	51.9%	100.0%
合計	N	97	288	744	1,491	2,620
	%	3.7%	11.0%	28.4%	56.9%	100.0%

表 30 経済的ゆとり感と「家では他の人のペースに合わせなくて人を気にしなくていい」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	5	7	8	14	34
	%	14.7%	20.6%	23.5%	41.2%	100.0%
多少はゆとりがある	N	129	254	353	433	1,169
	%	11.0%	21.7%	30.2%	37.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	118	243	294	366	1,021
	%	11.6%	23.8%	28.8%	35.8%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	67	81	117	138	403
	%	16.6%	20.1%	29.0%	34.2%	100.0%
合計	N	319	585	772	951	2,627
	%	12.1%	22.3%	29.4%	36.2%	100.0%

(20) 経済的ゆとり感と放課後過ごす場所との関係

児童に対して「放課後、あなたはどんな場所で過ごすことが多いか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 31 に示す。結果、「自分の家」1,999 名 (73.5%), 「友だちの家」483 名 (17.8%), 「塾」149 名 (5.5%), 「習い事をする教室」1,002 名 (36.9%), 「学童保育所」950 名 (34.9%), 「学校の校庭」80 名 (2.9%), 「公園、広場など」448 名 (16.5%), 「図書館」55 名 (2.0%), 「児童館」106 名 (3.9%), 「スーパーやコンビニエンスストア」59 名 (2.2%) であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「塾」や「習い事をする教室」、「図書館」が増加する傾向がみられた。他方、「かなりゆとりがある」群の「塾」の割合は、他の群と比較すると約3倍程

表 31 経済的ゆとり感と放課後過ごす場所との関係

		自分の家	友だちの家	塾	習い事をする教室	学童保育所
かなりゆとりがある	N	25	4	5	17	12
	%	71.4%	11.4%	14.3%	48.6%	34.3%
多少はゆとりがある	N	896	206	74	521	404
	%	74.0%	17.0%	6.1%	43.0%	33.4%
あまりゆとりがない	N	790	205	53	372	372
	%	74.6%	19.4%	5.0%	35.1%	35.1%
ほとんどゆとりがない	N	288	68	17	92	162
	%	69.6%	16.4%	4.1%	22.2%	39.1%
合計	N	1,999	483	149	1,002	950
	%	73.5%	17.8%	5.5%	36.9%	34.9%

		学校の校庭	公園、広場など	図書館	児童館(児童館で行っている放課後児童クラブなどの活動を含む)	スーパーやコンビニエンスストア
かなりゆとりがある	N	0	2	1	1	1
	%	0.0%	5.7%	2.9%	2.9%	2.9%
多少はゆとりがある	N	29	200	29	46	23
	%	2.4%	16.5%	2.4%	3.8%	1.9%
あまりゆとりがない	N	40	178	21	45	29
	%	3.8%	16.8%	2.0%	4.2%	2.7%
ほとんどゆとりがない	N	11	68	4	14	6
	%	2.7%	16.4%	1.0%	3.4%	1.4%
合計	N	80	448	55	106	59
	%	2.9%	16.5%	2.0%	3.9%	2.2%

度あるいは3倍以上となっている。また、「かなりゆとりがある」群の「友だちの家」、「学校の校庭」、「公園、広場など」の割合は低い特徴がみられた。

(21) 経済的ゆとり感と大切な居場所の有無との関係

児童に対して「放課後の居場所の中で、いろいろな意味で、もっともあなたにとって大事な場所」について質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 32 に示す。結果、大切な場所がないとの回答は 645 名 (23.7%)、大切な場所があるとの回答は 2,074 名 (76.3%) であった。

表 32 経済的ゆとり感と大切な居場所の有無との関係

		回答無	回答有	合計
かなりゆとりがある	N	8	27	35
	%	22.9%	77.1%	100.0%
多少はゆとりがある	N	255	956	1,211
	%	21.1%	78.9%	100.0%
あまりゆとりがない	N	265	794	1,059
	%	25.0%	75.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	117	297	414
	%	28.3%	71.7%	100.0%
合計	N	645	2,074	2,719
	%	23.7%	76.3%	100.0%

(22) 経済的ゆとり感と「居場所」に関する気持ちとの関係

児童に対して「あなたの“居場所”について、次のそれぞれの文は、自分の気持ちにどの程度あてはまりますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 2 に示す。なお、本項目は、上記表 32 のうち「回答有」であった児童のみを対象とした。

結果、「居場所には自分を本当に理解してくれる人がいて大切にされている」については、「ぜんぜんあてはまらない」35 名 (1.7%)、「あまりあてはまらない」73 名 (3.6%)、「ややあてはまる」402 名 (19.6%)、「とてもあてはまる」1,537 名 (75.1%) であった (表 33)。経済的ゆとり感の有無にかかわらず、9割以上の児童は「居場所には自分を本当に理解してくれる人がいて大切にされている」と感じている傾向がみられた。他方、「かなりゆとりがある」群は「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」にほとんどの回答が集まっているものの、他の群は「ぜんぜんあてはまらない」や「あまりあてはまらない」にもばらつきがみられる。特に、経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、「あまりあてはまらない」と「ややあてはまる」が増加する一方、「とてもあてはまる」と「ぜんぜんあてはまらない」が減少する傾向がみられた。

「居場所では自分らしくいられて楽しい」については、「ぜんぜんあてはまらない」20 名 (1.0%)、「あまりあてはまらない」59 名 (2.9%)、「ややあてはまる」346 名 (16.9%)、「とてもあてはまる」1,626 名 (79.3%) であった (表 34)。経済的ゆとり感の有無にかかわらず、9割以上の児童は「居場所では自分らしくいられて楽しい」と感じている傾向がみられた。他方、「かなりゆとりがある」群は「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」にほとんどの回答が集まっているものの、他の群は「ぜんぜんあてはまらない」や「あまりあてはまらない」にもばらつきがみられる。また、経済的ゆとり感がある群からない

群に移るほど、「とてもあてはまる」が減少し、「かなりゆとりがある」群を除くと「ぜんぜんあてはまらない」と「あまりあてはまらない」も減少する傾向がみられた。

「居場所では自分だけの時間が持て好きなことができる」については、「ぜんぜんあてはまらない」89名(4.3%)、「あまりあてはまらない」168名(8.2%)、「ややあてはまる」507名(24.8%)、「とてもあてはまる」1,284名(62.7%)であった(表35)。経済的ゆとり感と「居場所では自分だけの時間が持て好きなことができる」について、特徴的な相関関係はみられなかった。他方、経済的ゆとり感の各群をみると、「かなりゆとりがある」群は「あまりあてはまらない」の割合が最も高い一方、「とてもあてはまる」の割合が最も低い。「ほとんどゆとりがない」群は「とてもあてはまる」の割合が最も高く、両極化の傾向がみられた。

「居場所では自分のことについてよく考えボーっとすることがある」については、「ぜんぜんあてはまらない」528名(25.8%)、「あまりあてはまらない」466名(22.8%)、「ややあてはまる」514名(25.1%)、「とてもあてはまる」536名(26.2%)であった(表36)。「居場所では自分のことについてよく考えボーっとすることがある」の特徴的な相関関係はみられなかった。他方、経済的ゆとり感の各群をみると、「かなりゆとりがある」群は「とてもあてはまる」と「ぜんぜんあてはまらない」の割合が最も高い一方、「ややあてはまる」と「あまりあてはまらない」の割合が最も低い。また、「ほとんどゆとりがない」群は「ややあてはまる」の割合が最も高い一方、「とてもあてはまる」の割合が最も低い傾向がみられた。

「居場所では何かに夢中になれ自分に自信がもてる」については、「ぜんぜんあてはまらない」56名(2.7%)、「あまりあてはまらない」162名(7.9%)、「ややあてはまる」533名(26.1%)、「とてもあてはまる」1,294名(63.3%)であった(表37)。経済的ゆとり感の有無にかかわらず、9割以上の児童は「居場所では何かに夢中になれ自分に自信がもてる」と感じている傾向がみられた。他方、「かなりゆとりがある」群は「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」にほとんどの回答が集まっているものの、他の群は「ぜんぜんあてはまらない」や「あまりあてはまらない」にもばらつきがみられる。他方、経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「居場所では何かに夢中になれ自分に自信がもてる」が「とてもあてはまる」と感じる児童が増加する傾向がみられた。

「居場所では他の人のペースに合わせなくて人を気にしなくていい」については、「ぜんぜんあてはまらない」286名(14.0%)、「あまりあてはまらない」391名(19.1%)、「ややあてはまる」588名(28.8%)、「とてもあてはまる」780名(38.1%)であった(表38)。経済的ゆとり感と「居場所では他の人のペースに合わせなくて人を気にしなくていい」には顕著な相関関係はみられなかった。他方、「ぜんぜんあてはまらない」は「かなりゆとりがある」群と「ほとんどゆとりがない」群の割合が高く、「とてもあてはまる」は「多少はゆとりがある」群と「あまりゆとりがない」群の割合が高いという両極化傾向がみられた。

表 33 経済的ゆとり感と「居場所は自分を本当に理解してくれる人がいて大切にされている」
との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	1	0	5	21	27
	%	3.7%	0.0%	18.5%	77.8%	100.0%
多少はゆとりがある	N	22	31	170	722	945
	%	2.3%	3.3%	18.0%	76.4%	100.0%
あまりゆとりがない	N	10	30	157	587	784
	%	1.3%	3.8%	20.0%	74.9%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	2	12	70	207	291
	%	0.7%	4.1%	24.1%	71.1%	100.0%
合計	N	35	73	402	1,537	2,047
	%	1.7%	3.6%	19.6%	75.1%	100.0%

表 34 経済的ゆとり感と「居場所では自分らしくいられて楽しい」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	0	0	4	23	27
	%	0.0%	0.0%	14.8%	85.2%	100.0%
多少はゆとりがある	N	11	33	140	764	948
	%	1.2%	3.5%	14.8%	80.6%	100.0%
あまりゆとりがない	N	6	20	149	610	785
	%	0.8%	2.5%	19.0%	77.7%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	3	6	53	229	291
	%	1.0%	2.1%	18.2%	78.7%	100.0%
合計	N	20	59	346	1,626	2,051
	%	1.0%	2.9%	16.9%	79.3%	100.0%

表 35 経済的ゆとり感と「居場所では自分だけの時間が持て好きなことができる」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	2	2	8	15	27
	%	7.4%	7.4%	29.6%	55.6%	100.0%
多少はゆとりがある	N	42	84	215	607	948
	%	4.4%	8.9%	22.7%	64.0%	100.0%
あまりゆとりがない	N	28	59	222	474	783
	%	3.6%	7.5%	28.4%	60.5%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	17	23	62	188	290
	%	5.9%	7.9%	21.4%	64.8%	100.0%
合計	N	89	168	507	1,284	2,048
	%	4.3%	8.2%	24.8%	62.7%	100.0%

表 36 経済的ゆとり感と「居場所では自分のことについてよく考えゴーストすることがある」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	9	4	5	9	27
	%	33.3%	14.8%	18.5%	33.3%	100.0%
多少はゆとりがある	N	251	205	241	249	946
	%	26.5%	21.7%	25.5%	26.3%	100.0%
あまりゆとりがない	N	190	192	192	206	780
	%	24.4%	24.6%	24.6%	26.4%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	78	65	76	72	291
	%	26.8%	22.3%	26.1%	24.7%	100.0%
合計	N	528	466	514	536	2,044
	%	25.8%	22.8%	25.1%	26.2%	100.0%

表 37 経済的ゆとり感と「居場所では何かに夢中になれ自分に自信がもてる」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	0	0	8	19	27
	%	0.0%	0.0%	29.6%	70.4%	100.0%
多少はゆとりがある	N	33	76	221	617	947
	%	3.5%	8.0%	23.3%	65.2%	100.0%
あまりゆとりがない	N	14	57	227	485	783
	%	1.8%	7.3%	29.0%	61.9%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	9	29	77	173	288
	%	3.1%	10.1%	26.7%	60.1%	100.0%
合計	N	56	162	533	1,294	2,045
	%	2.7%	7.9%	26.1%	63.3%	100.0%

表 38 経済的ゆとり感と「居場所では他の人のペースに合わせなくて人を気にしなくていい」との関係

		ぜんぜん あてはまらない	あまり あてはまらない	やや あてはまる	とても あてはまる	合計
かなりゆとりがある	N	5	5	8	9	27
	%	18.5%	18.5%	29.6%	33.3%	100.0%
多少はゆとりがある	N	122	177	270	377	946
	%	12.9%	18.7%	28.5%	39.9%	100.0%
あまりゆとりがない	N	103	152	234	294	783
	%	13.2%	19.4%	29.9%	37.5%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	56	57	76	100	289
	%	19.4%	19.7%	26.3%	34.6%	100.0%
合計	N	286	391	588	780	2,045
	%	14.0%	19.1%	28.8%	38.1%	100.0%

(28) 経済的ゆとり感と放課後の楽しさとの関係

児童に対して「あなたは、放課後の時間を楽しく過ごしていますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 39 に示す。結果、「とても楽しく過ごしている」1,703 名 (65.0%)、「まあ楽しく過ごしている」812 名 (31.0%)、「あまり楽しく過ごしていない」80 名 (3.1%)、「まったく楽しく過ごしていない」27 名 (1.0%)であった。

経済的ゆとり感にかかわらず、9割以上の児童が「放課後の時間を楽しく過ごしている」傾向がみられた。他方、「とても楽しく過ごしている」割合は「かなりゆとりがある」群が最も高い一方、「あまり楽しく過ごしていない」と「まったく楽しく過ごしていない」の割合は「ほとんどゆとりがない」群が最も高い傾向がみられた。

表 39 経済的ゆとり感と放課後の楽しさとの関係

		とても楽しく 過ごしている	まあ楽しく 過ごしている	あまり楽しく 過ごしていない	まったく楽しく 過ごしていない	合計
かなりゆとりがある	N	24	9	1	0	34
	%	70.6%	26.5%	2.9%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	770	358	35	9	1,172
	%	65.7%	30.5%	3.0%	0.8%	100.0%
あまりゆとりがない	N	651	332	26	10	1,019
	%	63.9%	32.6%	2.6%	1.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	258	113	18	8	397
	%	65.0%	28.5%	4.5%	2.0%	100.0%
合計	N	1,703	812	80	27	2,622
	%	65.0%	31.0%	3.1%	1.0%	100.0%

(29) 経済的ゆとり感と放課後取り組みたい活動との関係

児童に対して「放課後、あなたが、もっとやってみたいと思うもの」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 40 に示す。結果、「おやつや料理を作る」1,259 名 (46.3%)、「昔遊びをする」625 名 (23.0%)、「絵やイラストを描く」1,066 名 (39.2%)、「簡単な実験や工作をする」1,110 名 (40.8%)、「虫を取ったり、花を観察したりする」1,106 名 (40.7%)、「音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする」735 名 (27.0%)、「運動やスポーツをする」1,425 名 (52.4%)、「お年寄りや障害のある人の手助けをするボランティア活動に参加する」340 名 (12.5%)、「そうじなどのボランティア活動に参加する」336 名 (12.4%)、「外国の人と交流する」289 名 (10.6%)であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「絵やイラストを描く」や「外国の人と交流する」が増加する傾向がみられた。また、「おやつや料理を作る」、「昔遊びをする」、「お年寄りや障害のある人の手助けをするボランティア活動に参加する」、「そうじなどのボランティア活動に参加する」は「かなりゆとりがある」群においてその割合が低い傾向がみられた。

表 40 経済的ゆとり感と放課後取り組みたい活動との関係

		おやつや料理を作る	昔遊び(竹馬やコマ など)をする	絵やイラストを描く	簡単な実験や 工作をする	虫を取ったり、花を 観察したりする
		かなりゆとりがある	N	13	6	19
	%	37.1%	17.1%	54.3%	34.3%	40.0%
多少はゆとりがある	N	578	288	489	525	501
	%	47.7%	23.8%	40.4%	43.4%	41.4%
あまりゆとりがない	N	479	225	403	412	420
	%	45.2%	21.2%	38.1%	38.9%	39.7%
ほとんどゆとりがない	N	189	106	155	161	171
	%	45.7%	25.6%	37.4%	38.9%	41.3%
合計	N	1,259	625	1,066	1,110	1,106
	%	46.3%	23.0%	39.2%	40.8%	40.7%

		音楽を聴いたり、楽器 を演奏したりする	運動やスポーツをする	お年寄りや障害のある人 の手助けをするボラン ティア活動に参加する	そうじなどのボラン ティア活動に参加する	外国の人と交流をする
		かなりゆとりがある	N	10	17	2
	%	28.6%	48.6%	5.7%	5.7%	14.3%
多少はゆとりがある	N	318	637	155	148	132
	%	26.3%	52.6%	12.8%	12.2%	10.9%
あまりゆとりがない	N	292	561	129	137	112
	%	27.6%	53.0%	12.2%	12.9%	10.6%
ほとんどゆとりがない	N	115	210	54	49	40
	%	27.8%	50.7%	13.0%	11.8%	9.7%
合計	N	735	1,425	340	336	289
	%	27.0%	52.4%	12.5%	12.4%	10.6%

(30) 経済的ゆとり感と休日の楽しさとの関係

児童に対して「あなたは、休日を楽しく過ごしていますか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 41 に示す。結果、「とても楽しく過ごしている」1,974 名 (75.2%)、「まあ楽しく過ごしている」591 名 (22.5%)、「あまり楽しく過ごしていない」51 名 (1.9%)、「まったく楽しく過ごしていない」8 名 (0.3%)であった。

経済的ゆとり感にかかわらず、9割以上の児童が「休日を楽しく過ごしている」傾向がみられた。一方、経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「あまり楽しく過ごしていない」や「まったく楽しく過ごしていない」の割合が増加する傾向がみられた。

表 41 経済的ゆとり感と休日の楽しさとの関係

		とても楽しく 過ごしている	まあ楽しく 過ごしている	あまり楽しく 過ごしていない	まったく楽しく 過ごしていない	合計
		かなりゆとりがある	N	26	8	0
	%	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	919	228	19	3	1,169
	%	78.6%	19.5%	1.6%	0.3%	100.0%
あまりゆとりがない	N	745	256	18	2	1,021
	%	73.0%	25.1%	1.8%	0.2%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	284	99	14	3	400
	%	71.0%	24.8%	3.5%	0.8%	100.0%
合計	N	1,974	591	51	8	2,624
	%	75.2%	22.5%	1.9%	0.3%	100.0%

(31) 経済的ゆとり感と休日の取り組みたい活動との関係

児童に対して「休日、あなたが、もっとやってみたいと思うもの」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 42 に示す。結果、「おやつや料理を作る」1,363 名 (50.1%)、「昔遊びをする」671 名 (24.7%)、「絵やイラストを描く」1,057 名 (38.9%)、「簡単な実験や工作をする」1,153 名 (42.4%)、「虫を取ったり、花を観察したりする」1,141 名 (42.0%)、「音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする」733 名 (27.0%)、「運動やスポーツをする」1,556 名 (57.2%)、「お年寄りや障害のある人の手助けをするボランティア活動に参加する」326 名 (12.0%)、「地域の清掃などのボランティア活動に参加する」296 名 (10.9%)、「外国の人と交流する」274 名 (10.1%)であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、「絵やイラストを描く」、「簡単な実験や工作をする」が増加する傾向がみられた。また、「おやつや料理を作る」、「昔遊びをする」、「お年寄りや障害のある人の手助けをするボランティア活動に参加する」、「地域の清掃などのボランティア活動に参加する」は「かなりゆとりがある」群においてその割合が低い傾向がみられた。

表 42 経済的ゆとり感と休日の取り組みたい活動との関係

		おやつや料理を作る	昔遊び(竹馬やコマなど)をする	絵やイラストを描く	簡単な実験や工作をする	虫を取ったり、花を観察したりする
かなりゆとりがある	N	15	7	15	18	15
	%	42.9%	20.0%	42.9%	51.4%	42.9%
多少はゆとりがある	N	630	314	488	529	523
	%	52.0%	25.9%	40.3%	43.7%	43.2%
あまりゆとりがない	N	509	249	404	450	431
	%	48.1%	23.5%	38.1%	42.5%	40.7%
ほとんどゆとりがない	N	209	101	150	156	172
	%	50.5%	24.4%	36.2%	37.7%	41.5%
合計	N	1,363	671	1,057	1,153	1,141
	%	50.1%	24.7%	38.9%	42.4%	42.0%

		音楽を聴いたり、楽器を演奏したりする	運動やスポーツをする	お年寄りや障害のある人の手助けをするボランティア活動に参加する	地域の清掃などのボランティア活動に参加する	外国の人と交流をする
かなりゆとりがある	N	12	18	2	3	3
	%	34.3%	51.4%	5.7%	8.6%	8.6%
多少はゆとりがある	N	323	693	146	143	130
	%	26.7%	57.2%	12.1%	11.8%	10.7%
あまりゆとりがない	N	294	622	136	116	105
	%	27.8%	58.7%	12.8%	11.0%	9.9%
ほとんどゆとりがない	N	104	223	42	34	36
	%	25.1%	53.9%	10.1%	8.2%	8.7%
合計	N	733	1,556	326	296	274
	%	27.0%	57.2%	12.0%	10.9%	10.1%

(32) 経済的ゆとり感と学校で楽しみにしている時間の程度との関係

児童に対して「学校で過ごす時間の中で楽しみにしている時間があるか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 43 に示す。結果、「ある」1,943 名 (74.2%)、「まあある」557 名 (21.3%)、「あまりない」91 名 (3.5%)、「まったくない」26 名 (1.0%)であった。

経済的ゆとり感と学校で楽しみにしている時間の程度との相関関係はみられなかった。他方、経済的ゆとり感の各群をみると、「かなりゆとりがある」群は「あまりない」と「まったくない」の割合が最も高い一方、「ある」の割合が最も低い傾向がみられた。

表 43 経済的ゆとり感と学校で楽しみにしている時間の程度との関係

		ある	まあある	あまりない	まったくない	合計
かなりゆとりがある	N	22	7	3	2	34
	%	64.7%	20.6%	8.8%	5.9%	100.0%
多少はゆとりがある	N	868	255	31	14	1,168
	%	74.3%	21.8%	2.7%	1.2%	100.0%
あまりゆとりがない	N	764	214	33	6	1,017
	%	75.1%	21.0%	3.2%	0.6%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	289	81	24	4	398
	%	72.6%	20.4%	6.0%	1.0%	100.0%
合計	N	1,943	557	91	26	2,617
	%	74.2%	21.3%	3.5%	1.0%	100.0%

(33) 経済的ゆとり感と得意な勉強の有無との関係

児童に対して「得意な勉強があるか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 44 に示す。結果、「ある」1,789 名 (68.7%), 「まあある」581 名 (22.3%), 「あまりない」186 名 (7.1%), 「まったくない」49 名 (1.9%) であった。

経済的ゆとり感がない群からある群に移るほど、得意な勉強がある傾向がみられた。

表 44 経済的ゆとり感と得意な勉強の有無との関係

		ある	まあある	あまりない	まったくない	合計
かなりゆとりがある	N	27	6	1	0	34
	%	79.4%	17.6%	2.9%	0.0%	100.0%
多少はゆとりがある	N	830	246	69	16	1,161
	%	71.5%	21.2%	5.9%	1.4%	100.0%
あまりゆとりがない	N	673	240	78	21	1,012
	%	66.5%	23.7%	7.7%	2.1%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	259	89	38	12	398
	%	65.1%	22.4%	9.5%	3.0%	100.0%
合計	N	1,789	581	186	49	2,605
	%	68.7%	22.3%	7.1%	1.9%	100.0%

(34) 経済的ゆとり感と仲の良い友人の有無との関係

児童に対して「友だちのことや勉強のことで困ったときに、何でも話せる仲のよい友だちがいるか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 45 に示す。結果、「いる」1,591 名 (61.1%), 「まあいる」607 名 (23.3%), 「あまりいない」278 名 (10.7%), 「まったくない」129 名 (5.0%) であった。

経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、何でも話せる仲の良い友人が「いる」傾向がみられた。他方、「かなりゆとりがある」群は、「あまりいない」の割合が最も高く、「まったくない」の割合も他の群と比較して高い。また、「ほとんどゆとりがない」群は「いる」と「まったくない」の割合が最も高く、両極化傾向がみられた。

表 45 経済的ゆとり感と仲の良い友人の有無との関係

		いる	まあいる	あまりいない	まったくいない	合計
かなりゆとりがある	N	17	9	6	2	34
	%	50.0%	26.5%	17.6%	5.9%	100.0%
多少はゆとりがある	N	711	283	112	57	1,163
	%	61.1%	24.3%	9.6%	4.9%	100.0%
あまりゆとりがない	N	615	236	117	46	1,014
	%	60.7%	23.3%	11.5%	4.5%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	248	79	43	24	394
	%	62.9%	20.1%	10.9%	6.1%	100.0%
合計	N	1,591	607	278	129	2,605
	%	61.1%	23.3%	10.7%	5.0%	100.0%

(35) 経済的ゆとり感と相談できる先生の有無との関係

児童に対して「困ったときに真っ先に相談できる先生が身近にいるか」と質問した結果と経済的ゆとり感との関係を表 46 に示す。結果、「いる」1,488 名 (56.8%), 「まあいる」707 名 (27.0%), 「あまりいない」314 名 (12.0%), 「まったくいない」112 名 (4.3%) であった。

経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、困ったときに相談できる先生が「あまりいない」あるいは「まったくいない」傾向がみられた。一方、「かなりゆとりがある」群は「いる」と「まったくいない」の割合が最も低い傾向がみられた。

表 46 経済的ゆとり感と相談できる先生の有無との関係

		いる	まあいる	あまりいない	まったくいない	合計
かなりゆとりがある	N	17	12	4	1	34
	%	50.0%	35.3%	11.8%	2.9%	100.0%
多少はゆとりがある	N	667	305	147	45	1,164
	%	57.3%	26.2%	12.6%	3.9%	100.0%
あまりゆとりがない	N	591	281	108	41	1,021
	%	57.9%	27.5%	10.6%	4.0%	100.0%
ほとんどゆとりがない	N	213	109	55	25	402
	%	53.0%	27.1%	13.7%	6.2%	100.0%
合計	N	1,488	707	314	112	2,621
	%	56.8%	27.0%	12.0%	4.3%	100.0%

IV. 総合考察

本報告は、子どもの貧困に着目し、熊谷市子どもの生活実態調査から現状と課題を整理することで、熊谷市の子どもの貧困対策を検討する上での論点を提示することを目的とした。そして、平成31年度に策定する熊谷市子ども・子育て支援事業計画における子どもの貧困に関する対策に役立てることを目指すものである。

これまで、結果と考察において分析結果と考察を示してきたが、情報を整理するなかでみてきたいくつかの論点を以下に提示する。

1. 経済的ゆとり感と配偶者の有無との関係

経済的ゆとり感と配偶者の有無の関係をみると、経済的ゆとり感の「ほとんどゆとりがない」群以外は、配偶者が「いる」との回答が9割以上であるものの、「ほとんどゆとりがない」群のみ、配偶者が「いる」との回答が7割台となっている。加えて、「ほとんどゆとりがない」群は「離婚」、「未婚」の割合が他の回答に比べて高い。つまり、「ほとんどゆとりがない」群以外の家庭は両親がいる家庭（以下、「両親家庭」と表記する）の割合が高いものの、「ほとんどゆとりがない」群はひとり親家庭の割合が高い傾向にある。特に、「離婚」によりひとり親家庭となった割合が比較的高い。つまり、経済的ゆとり感がないひとり親家庭、特に離婚によるひとり親家庭は注目すべき対象であるといえる。

そこで、配偶者が「いる」と回答した場合を「両親家庭」、「死別」、「離別」と回答した場合を「ひとり親家庭」として各家庭における経済的ゆとり感を算出したところ、「ほとんどゆとりがない」群のうち、両親家庭は13.0%、ひとり親家庭は41.6%となった。つまり、熊谷市におけるひとり親家庭の4割以上は経済的ゆとり感がないといえる。よって、ひとり親家庭への経済的支援は重要な課題であると考えられる。ただし、両親家庭についても、「ほとんどゆとりがない」群は、小学校1、2年生の家庭だけでも318家庭存在しているため、ひとり親家庭ではなく経済的ゆとり感がない家庭が存在することに留意する必要がある。

2. 経済的ゆとり感と職業・配偶者の有無との関係

経済的ゆとり感と回答者の職業との関係をみると、経済的ゆとり感のうち「かなりゆとりがある」群は、「常勤」、「専業主婦」の割合が高い。一方、「ほとんどゆとりがない」群は、「非常勤、パート、アルバイト」の割合が5割を超えている。また、「あまりゆとりがない」と回答した者も約5割程度存在することから、経済的ゆとり感がない家庭のうち半数程度は「非常勤、パート、アルバイト」といえる。ただし、「常勤」や「専業主婦」でも2割程度の家庭は「ほとんどゆとりがない」と回答しており、逆に「非常勤、パート、アルバイト」の2割程度の家庭は「かなりゆとりがある」と回答している。

上記分析をさらに両親家庭とひとり親家庭に分けたところ、両親家庭であっても母子家庭・父子家庭であっても、「ほとんどゆとりがない」群の「非常勤、パート、アルバイト」の割合は同程度である。しかし、「常勤」については、両親家庭と母子家庭・父子家庭では「ほとんどゆとりがない」の割合が大きく異なる。つまり、母子家庭の場合は「常勤」であっても経済的ゆとり感がない割合が高い。また、母子家庭・父子家庭ともに、経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、「常勤」の割合が減少する。つまり、熊谷市の場合も全国的な傾向と同様に、家庭間の経済格差が大きいことが想定される。特に、ひとり親については、一定層が生活に困窮している可能性がある。また、母子家庭の「非常勤、パート、アルバイト」層は特に注視する必要がある。つまり、「常勤」になれない理由が存在す

ると想定されるため、就労支援などに取り組む必要性が考えられる。なお、解釈の際、この経済的ゆとり感は主観的なものであることに留意する必要がある。

3. 親子間での認識のズレ

本調査は、保護者と児童のデータがネストされた状態で配布・回収している。つまり、親子のデータは関連付けがなされている。その上で、保護者と児童への質問が一致している項目を対象に、親子の認識の差を確認したところ、以下の傾向がみられた。

- ①親子の会話状況について表5と表19を対比すると、親子の認識は大きくは変わらなかった。ただし、経済的ゆとり感にかかわらず、児童の方が「たくさん話す」と認識していた。また、経済的ゆとり感がないほど話さない・話してくれない傾向がみられた。
- ②子どもの相談相手について表6と表20を対比すると、経済的ゆとり感にかかわらず、保護者より児童の方が、「相談相手はいない」と回答する割合ならびに件数が少なかった。つまり、保護者自身は子どもの相談相手がいないと認識していても、子ども自身は家族を頼りに相談相手にしているということが言える。特に「かなりゆとりがある」群は、親は相談相手がいないと認識していても、子どもは相談相手がいないとは思っていない。別の見方をするならば、子どもは保護者を頼っているものの、保護者自身は頼られているとは思っていない可能性があるため、保護者自身が子どもを受けとめる認識が必要とも言える。他方、児童の「相談相手がいない」という回答は32名おり、各校に1名程度は相談相手がない子どもがいる計算になる。少数ではあるものの、そのような相談相手がいない子どもの発見とケアが必要であろう。
- ③子どもの有用感・家庭内で任される仕事について表7と表23を対比すると、経済的ゆとり感にかかわらず、児童の「よくある」と保護者の「している」の回答割合は同程度であるものの、児童の「まったくない」や保護者の「全くしていない」に移るほど、保護者と子どもの認識が異なる傾向がみられた。特に、児童の「まったくない」と保護者の「全くしていない」の回答割合は、保護者と子どもの認識に差がみられる。つまり、保護者は有用感を持てるような取り組みをしていると認識していても、子どもは家庭内での役割がないと認識しており、特に「かなりゆとりがある」群は親子間の認識の差が大きい傾向がみられた。
- ④褒められる頻度について表8と表24を確認対比すると、経済的ゆとり感の有無にかかわらず、9割以上の保護者は子どもを褒めていると回答しているものの、子ども自身はそう感じていない傾向がみられた。特に、「ほとんどゆとりがない」群は7割程度しか家族に褒められていると感じていないため、親子間の認識に齟齬が生じている懸念がみられた。
- ⑤子どもが放課後過ごしている場所の認識について表9、10と表31を対比すると、約99%の親は自身の子どもが過ごしている場所を「よく把握している」あるいは「だいたい把握している」と認識していた。しかし、保護者の把握状況と比較して、「自分の家」、「塾」、「習い事をする教室」、「図書館」、「児童館」、「スーパーやコンビニ」で過ごす子どもが多い一方、「友だちの家」、「公園や、広場など」で過ごしている子どもは少ない傾向であり、認識の齟齬がみられた。なお、「学童保育所」、「学校の校庭」保護者と子どもの回答がほぼ一致していた。
- ⑥放課後の時間について表11と表40を対比すると、「おやつや料理を作る」、「昔遊び」、「絵やイラストを描く」、「簡単な実験や工作」、「虫取り、花の観察」、「音楽を聴く、楽器の演奏」、「ボランティア活動」は、保護者が取り組ませたいと思っている以上に、子どもは取り組みたいと感じてる

傾向が顕著にみられた。一方、「運動やスポーツ」は保護者が感じている以上に、子どもは取り組みたいと思っていない傾向がみられた。ただし、「運動やスポーツ」は子ども自身が取り組みたいことの中で最も割合が高い。加えて、子ども自身は概ね放課後楽しいと回答している。

特に親子間の認識の差が大きい項目は、「昔遊び」や「虫取り、花の観察」であり、「ほとんどゆとりがない」群は親子間での割合の差が最も大きい。一方、「かなりゆとりがある」群は「絵やイラスト」が親子間での割合の差が最も大きい。その他、「ボランティア活動」や「昔遊び」は「かなりゆとりがある」群において親子間での認識はほぼ一致している傾向がみられた。経済的ゆとり感がない家庭への遊び環境の提供が大切となる一方、経済的ゆとり感がある家庭への支援も大事であると考えられた。

以上の結果から、経済的ゆとり感にかかわらず、親子間の認識のズレがある傾向がみられた。特に、経済的ゆとり感がない家庭は、子どもの生活実態を必ずしも把握できておらず、むしろ親は寛大に捉える傾向があるように見受けられる。このことは、児童の起床時間・就寝時間や夕食を一緒に食べる家族などの項目と関連する可能性があるが、経済的ゆとり感がない家庭は保護者が家庭内で子どもの生活をみる機会が少ないことや、親子間でのコミュニケーションが不足している可能性があるため、親子間でコミュニケーションをとる機会をつくること、そして子どもを孤立させない取り組みが必要となる。

4. 経済的ゆとり感と起床時間・就寝時間の関係

経済的ゆとり感と児童の起床時間と就寝時間の関係について、経済的ゆとり感がない家庭は平日の起床時間が若干早い一方、土曜日・日曜日は起床時間が遅い傾向がある。また、経済的ゆとり感がある家庭ほど起床時間のばらつきが少なく、就寝時間のばらつきも少ない。つまり、「学校がある日」はばらつきが少なく、生活習慣が整っている特徴がみられた。一方、「土曜日」と「日曜日」は「かなりゆとりがある」群よりも他の群の方が、起床時間ならびに就寝時間にばらつきがみられた。このことから、一部の子どもの基本的な生活習慣が乱れている懸念が考えられるため、家庭での生活習慣の改善が図れるような取り組みが求められる。

5. 経済的ゆとり感と勉強時間・進学希望・希望職業との関係

経済的ゆとり感と勉強時間・進学希望・希望職業との関係について、経済的ゆとり感の「かなりゆとりがある」と回答した家庭は、子どもの勉強時間が他の経済的ゆとり感の回答に比べて比較的長い。また、将来就きたい仕事は、「医者」や「学校の先生」、「わからない」との割合が比較的高い一方、「会社員」、「スポーツ選手」、「幼稚園・保育園の先生」の割合が他の経済的ゆとり感の回答に比べて比較的低い。さらに、経済的ゆとり感が「かなりゆとりがある」と回答した家庭の方が他の回答に比べて子ども自身が高等教育への進学を希望している傾向がみられた。このことは、逆に言えば、経済的ゆとり感がない家庭の子どもほど、勉強時間が短く、高等教育への進学希望が低い傾向があるといえる。そのため、経済的ゆとり感がない家庭の子どもを対象とした学習支援や、子どもたちが将来の視野が広がるような取り組みなどが期待される。

6. 経済的ゆとり感と放課後や休日の状況・勉強との関係

経済的ゆとり感と放課後や休日の状況との関係について、経済的ゆとり感がない家庭の子ども

ほど、家庭での居場所感や放課後の時間の楽しさが低いこと、得意な勉強がないこと、放課後や休日をあまり楽しく過ごせていない傾向がある一方、経済的ゆとり感が低いほど学校で過ごす時間の中で楽しみにしている時間がある傾向がみられた。なお、放課後過ごす場所について、経済的ゆとり感の「かなりゆとりがある」と回答した家庭は、「塾」の割合が他の回答に比べて高いものの、それ以外の放課後の居場所は、経済的ゆとり感による違いはほとんどみられなかった。その他、放課後や休日にやってみいたいことなどは、大きな差はみられなかった。

つまり、経済的ゆとり感がない家庭の子どもは、家庭など自身の居場所がなく、放課後や休日を楽しみ過ごせていない傾向があるということである。ただし、勉強は得意ではないものの、学校で過ごす時間に楽しみを見出している傾向がみられることから、学校を中心に子どもの居場所を広げていける可能性があると考えられる。

7. 子どもの相談相手

学校の出来事を家族に話す程度や家庭内の相談相手、仲の良い友人、相談できる先生の有無について、経済的ゆとり感がある群からない群に移るほど、相談相手がいない傾向がみられた。このうち、全て相談先がないのか否かは、さらに深く分析をおこなう必要があるため推論の域をでないものの、経済的ゆとり感がない家庭の子どもは、信頼できる相談先を持たない可能性がある。家族、友人、学校のいずれかに相談できる体制づくりは、子どもを孤立させないための大きな課題であることが考えられる。

分析結果から、上記7点について論点を整理した。なお、上記7点は重複する課題もあることに留意したい。その上で、全体的な傾向として考えられることは、保護者の主観的な経済的ゆとり感がない家庭の子どもほど、様々な面において生活面・精神面での辛さを抱えている可能性があるということである。また、それは子どもだけではなく、保護者自身、特にひとり親家庭は辛さを抱えながら生活している可能性を秘めているということである。このような家庭に対する支援は、行政による経済的な支援だけでは不十分な可能性がある。家庭内の問題に対してアプローチするために、保育所・幼稚園・小学校・中学校などの各機関との連携や、各地域住民や民生・児童委員、ボランティア等との連携、福祉と教育、そして保健医療分野との連携など、分野・領域を超えて家庭を支える仕組みづくりが求められる。

V. おわりに

本報告における論点の概要は、以下の通りである。

- ①ひとり親家庭への経済的支援は重要な課題である。ただし、両親家庭でも経済的ゆとり感がない家庭が存在することに留意する必要がある。
- ②家庭間の経済格差が大きいことが想定される。特に、ひとり親家庭は一定層が生活に困窮している可能性がある。また、母子家庭のうち「非常勤、パート、アルバイト」層は特に注視する必要がある。このような家庭は「常勤」になれない理由が存在すると想定されるため、就労支援などに取り組む必要性が考えられる。
- ③経済的ゆとり感にかかわらず、親子間の認識のズレがある傾向がみられる。特に、経済的ゆとり感がない家庭は、子どもの生活実態を必ずしも把握できておらず、むしろ親は寛大に捉える傾向があるように見受けられる。このことは、保護者が子どもの生活をみる機会が少ないことや、親子間でのコミュニケーションが不足している可能性があるため、親子間でコミュニケーションをとる機会をつくること、そして子どもを孤立させない取り組みが必要となる。
- ④経済的ゆとり感のない子どもは、特に就寝時間のばらつきがみられる。つまり、一部の子どもの基本的な生活習慣が乱れている懸念が考えられるため、家庭での生活習慣の改善が図れるような取り組みが求められる。
- ⑤経済的ゆとり感がない家庭の子どもほど、勉強時間が短く、高等教育への進学希望が低い傾向がある。そのため、経済的ゆとり感がない家庭の子どもを対象とした学習支援や、子どもたちが将来の視野が広がるような取り組みなどが期待される。
- ⑥経済的ゆとり感がない家庭の子どもは、家庭など自身の居場所がなく、放課後や休日を楽しく過ごせていない傾向がある。ただし、勉強は得意ではないものの、学校で過ごす時間を楽しみを見出している傾向がみられるため、学校を中心に子どもの居場所を広げていける可能性がある。
- ⑦経済的ゆとり感がない家庭の子どもは、信頼できる相談先を持たない可能性がある。家族、友人、学校のいずれかに相談できる体制づくりは、子どもを孤立させないための大きな課題である。

以上、分析から論点を提示したが、調査上の限界と課題を挙げる。

1つは、経済的ゆとり感の主観的なものであり、貧困を計測するための客観的なものではないことに留意しながら分析結果を解釈する必要がある。2つめは、本調査は広く保護者と子どもの生活状況を聞くための質問項目を用意していることから、各結果の傾向を深めるための分析をおこなうことができないことが本研究の限界である。

引用・参考文献

- ベネッセ教育総合研究所(2013)第1回幼児期から小学1年生の家庭教育調査報告書
第11期神奈川県生涯学習審議会専門部会(2014)神奈川県における放課後の子どもの居場所
づくりに向けた実態調査研究 調査報告書
府中市(2014)子ども・子育て支援に関する市民意向調査
原田壽子・石井富美子・梅澤啓一・大竹 智・大平 滋・迫田圭子・仲山佳秀・矢澤圭介(2007)プ
ロジェクト研究報告書「熊谷市における子どもの生活実態調査研究」熊谷市における子どもの心
身の発達の多角的, 統合的検証と今後の方策ー子育て環境・教育環境の充実を目指してー.
立正大学社会福祉研究所, 9, 1-115.
厚生労働省(2017)国民生活基礎調査
熊谷市(2015)熊谷市子ども・子育て支援事業計画
内閣府(2014)平成25年度 小学生・中学生の意識に関する調査
大平 滋・石井富美子・篠崎祐介・白井健次・野澤義隆・矢澤圭介(2017)立正大学社会福祉学
部20周年記念事業プロジェクトC「熊谷市子どもの生活実態調査・成育環境づくり(まちづくり)
調査」, 立正大学社会福祉研究所年報, 第19号, 121-188.

〈立正大学社会福祉学部〉
〈熊谷市福祉部こども課〉
〈熊谷児童相談所〉

平成 31 年 3 月 20 日 発行

